

会報  
第83号

は きょう  
**巴 響**

一般社団法人 **函館文化会**

〒042-0955 函館市高丘町51番1号  
学校法人野又学園 函館大学内  
電話・FAX (0138) 57-1175  
E-mail bunkakai@host.or.jp  
URL http://hakodate-bunkakai.com/

**令和2年「神山茂賞」贈呈式・祝賀会**



関係者による記念撮影



江差追分を熱唱する  
館 和夫氏



祝賀ステージ・七飯男爵太鼓創作会

(写真撮影：フォトスタジオカトー)

令和2年「神山茂賞」は、郷土史研究家 館 和夫氏に贈呈、贈呈式・祝賀会は来賓、関係者及び会員が集い五島軒本店で開催しました。

贈呈式後には、館和夫氏による受賞記念講演、続いての祝賀会は祝賀ステージで七飯男爵太鼓創作会皆さんの演奏に始まり、途中、館 和夫氏の「江差追分」の披露もあって、華やかな中にも和やかな雰囲気の中での祝賀会となりました。(贈呈式・祝賀会の内容は4ページに)

**函館文化会 会報「巴響」 第83号 目次**

令和2年「神山茂賞」贈呈式・祝賀会	1	函館山と巴のこと	川見 順春	20
令和3年度定時総会を開催 ～令和2年度事業報告・決算報告を承認～	2	函館山とルリビタキ	佐藤 理夫	22
会長挨拶		臥牛山	吉田 則幸	23
千本の手	金山 正智	函館山「津軽要塞」探訪記	若山 直	25
函館文化会役員名簿(令和2年度定時総会選任)	3	函館山 二話	近江 幸雄	26
令和2年「神山茂賞」～館 和夫氏に贈呈～	4	原稿募集・次回テーマは「西部地区の街並み」		27
受賞記念講演		函館文化会ホームページ・ブログの開設について		27
川田男爵の進取の気性と江差追分の癒しの力		特集 函館文化会創立140年を迎えました		28
館 和夫	5	特別寄稿		
函館文化会講演会		追悼 函館文化会前会長 安島 進氏を偲んで	安島 進	30
令和3年度講演会開催案内	8	安島 進先生の教え	繪面 和子	30
令和2年度講演会・講演録		安島教育長と文学館の建設	櫻井 健治	31
函館・空の事件簿	相原 秀起	函館文化会への思いを寄せて	上田 昌昭	33
特集 函館の歴史と文化を語り継ぐ⑥		函館文化会、会員募集及び助成制度		34
～テーマ「函館山」～		会務報告		
歴史が刻まれる自然の宝庫“函館山”	阪口 等	令和2年度事業報告		35
緑の臥牛山	橋田 恭一	事務局からのお知らせとお願い		36
函館山との語り	梶原 佑倅	令和2年度収支計算書		37
絶賛！函館山	岡崎 圭子	函館文化会会員名簿(R3.10.1現在)		38
		編集後記		38

## 令和3年度定時総会を開催 ～ 事業報告・決算を承認 ～

一般社団法人函館文化会では、令和3年度定時総会を去る5月26日(水)午後2時からフォーポイントバイシェラトン函館において、会員総数146名のうち125名(委任状出席を含む)が出席し開催いたしました。新型コロナウイルス感染症拡大により道内に「緊急事態宣言」が発出され、外出自粛要請が続く状況の中ではありませんでしたが、感染対策を図りながらできる限り会議時間を短縮し、また、例年総会審議の後行われている「卓話」を中止するなど不便な中での開催でしたが、提出された議案・報告は全て原案のとおり承認・了承し、無事終了いたしました。

以下、定時総会の内容について、その概要をお知らせいたします。

定時総会は、体調不良で欠席した金山正智会長に代わり、平原康弘副会長からの挨拶後、平原副会長が議長となり、議事に入りました。今定時総会に付議された議案・報告は

- 議案第1 令和2年度事業報告について
- 議案第2 令和2年度収支決算及び監査報告について
- 報告第1 令和2年度収支補正予算について
- 報告第2 令和3年度事業計画について
- 報告第3 令和3年度収支予算について
- 報告第4 「講演会」の開催について

の6件で、議案第1、議案第2及び報告第1は関連があることから事務局から一括して説明、次いで監事から5月17日実施した監査について「収支決算については、収入・支出ともに適正に執行されており、また、事業も事業計画に基づき適正に行われていたと認める」との監査結果の報告があり、審議の結果、いずれも満場一致で承認・了承されました。

なお、承認された令和2年度事業報告・収支決算については、別掲(35ページ)のとおりです。

また、3月25日開催の令和2年度第4回理事会で議決した令和3年度事業計画・収支予算について、報告第2及び報告第3として一括説明があり、いずれも満場一致で了承されました。新年度事業の主なものは、「神山茂賞の贈呈」は継続して実施、同日開催の「受賞者を祝う会」には多くの会員に参加を呼びかけ、会員交流の場にもすること、また、「函館文化会講演会」は、10月16日(土) 函館市中央図書館で、元(株)ニチロ取締役東京支社長 加藤清郎氏を講師に「北洋漁業と函館」を演題に開催予定、さらに「郷土の歴史・文化等を学び・探求しながら、受け継がれてきた“郷土の歴史・文化”を後世に継承する」ことを目的として開催しております「市民公開講座」も継続して実施することが報告されました。



### 会報のタイトルが「巴響」(はきょう) になりました

函館文化会発行の「会報」は、昭和33年の創刊以来、毎年度の事業内容などお知らせのほか、近年では会員の皆さんにも参加いただき、会員交流の場として大切な役割を果たしてまいりました。

こうしたなかれを受け、企画委員会において「創刊以来続いている会報に、内容に相応しい愛称をつけ、会員に、より親しまれるものとしてはどうか」と検討を重ね、函館文化会創立140年を迎える今号から「巴響」(はきょう) とすることにいたしました。

函館文化会は、これまで「郷土の歴史と文化の伝承」を大切なテーマとして取り組んでおり、今回の「巴響」は「巴港(函館港)に響き渡ってきた郷土の歴史と文化を受け継ぎ、豊かに伝承する」という役割を担うに相応しいものと思っております。

「巴響」は、これまでと同様に函館文化会会員相互の橋渡し役を務め、会員に親しまれ、会員が参加する会報を目指して編集に取り組んでまいります。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

函館文化会 企画委員会

## 会長挨拶

## 千本の手

一般社団法人 函館文化会 会長 金山正智



浅草は観音様のまちといわれる。益田キートンのミュージカル公演の際には、このまちに随分とお世話になった。浅草老舗の女将さんの集まりである「オカミさんの会」の皆さんには、いろいろ教をいただいたが、折節に「わたしたちは三社様に助けられ、観音様に救われて」と話す。観音様と共にある毎日をありがたいものとして、生業に精を出す女将さんたちは、まことに幸せそうであった。その浅草が、コロナの炎をまともに浴びている。オカミさんたちは、今日も観音様に災禍の遠ざかるのをひたすら願っているに違いない。

観音様で思い出すのであるが、以前、奈良に出向いた際、そこで、思いもかけず唐招提寺の国宝・千手観音像の解体されたお姿を拝したことがある。唐招提寺・平成大修理の公開見学に巡り合わせたのである。

唐招提寺は、鑑真和上ゆかりの古刹である。千手観音像は、普段は三尊として金堂に佇立され、尊厳と慈愛あふれる面差しで、衆生に漏れなく救いの手を差し伸べておられる。ただ、まことに畏れ多いことであるが、この像全体から受ける印象は、とても美しいとは言い難い。体のあちこちに差し込んだ手の数があまりにも多く、かつ処かまわず無理やりの観があって、少し不気味ですらある。

公開の当日、5mを超す千手観音像は、すべてを取り払われ白布の上に横たえられていた。巨大なご本体は静謐のなかにある。左右には、諸装具のほか、おびたしい数の取り外された手が並べてあった。どの手にも、少し指で掬い取る気配がある。仏の心である。

その時、同行していた奈良市教委の担当さんが思いもかけないことを話した。この千手観音像のご本体には、千本の手が差し込まれていた「明確な痕跡がある」というのである。今は随分と欠落しているが、千手観音像は、その御名の通り、まこと千本の手を持ってお生まれになったというのである。「千手」とは、単に数の多さを語る比喩的表現ではなかったのか。陶然とした思いに包まれた記憶がある。

浅草ばかりではない。今、どのまちも、どの生活も、続くコロナの禍に懸命に耐えてきている。コロナに限らず、この世のあらゆる災禍が、いつ、どこから、なぜ来るのか、そしていつ、いずこへ去っていくのか、私どもに分かるはずがない。突然現出する災禍の中で、人はただただひたすらに神仏に救いを求めるばかりである。

と、唐突に思い浮かんだ。千手観音様には、やはり、きっちり「千本の手」を持っていただかなければならない。仏さまの姿形をもって、みっともないの、気味が悪いのと申しましたのは、とんだ心得違いでありました。苦難の日々から一人一人を救いだす仏の手は、九百九十九本ではだめなのです。人の心に応えるというのは、行き届いた御心の証である千本の手がどうしても必要なのです。

ところで観音様、もういい加減、お力をもってこの災禍は手仕舞いということにさせていただけないでしょうか。仏さまも律儀でなければ困るのです、そんな罰当たりな泣き言がでてくる。

難しいご時世です。今年も函館文化会へのご支援をお願いいたします。

## 一般社団法人 函館文化会 役員名簿

(令和2年5月25日選任)

○会 長	金山 正智	○理 事	小原 幸男	○理 事	山本 真也
○副 会 長	平原 康宏		櫻井 健治		若山 直
○常務理事	上田 昌昭		佐々木 茂	○監 事	向出 清治
○理 事	五百川 忠		平 昭世		山田 涼子
	繪面 和子		藤井 方雄	○顧 問	池見 厚一
	小笠原 孝		藤井 良江		

# 令和2年 神山茂賞

～郷土史研究家 館 和夫氏に贈呈～

函館文化会では、令和2年「神山茂賞」を郷土史研究家 館 和夫氏に贈呈しました。

贈呈式は、コロナ禍の中でしたが感染防止対策に万全を図りながら、受賞された館氏の関係者の皆様をはじめ、ご来賓やこれまでの受賞者、函館文化会会員など70人が出席して、故神山茂氏の命日に当たる11月7日(土) 五島軒本店において行いました。

館 和夫氏は、江差町に江戸時代から伝わる民謡「江差追分」に関する文献資料や地域での聞き取り調査を基に、江差追分の歴史・文化を明らかにするとともに、函館ドック再建のため専務取締役として函館に赴任した男爵川田龍吉が、ジャガイモの優良品種を輸入、

試験栽培を重ねて「男爵薯」を普及させた歴史的事実を人物伝としてまとめ、地域の歩みを跡づけるものとして、それぞれ評価されたものです。

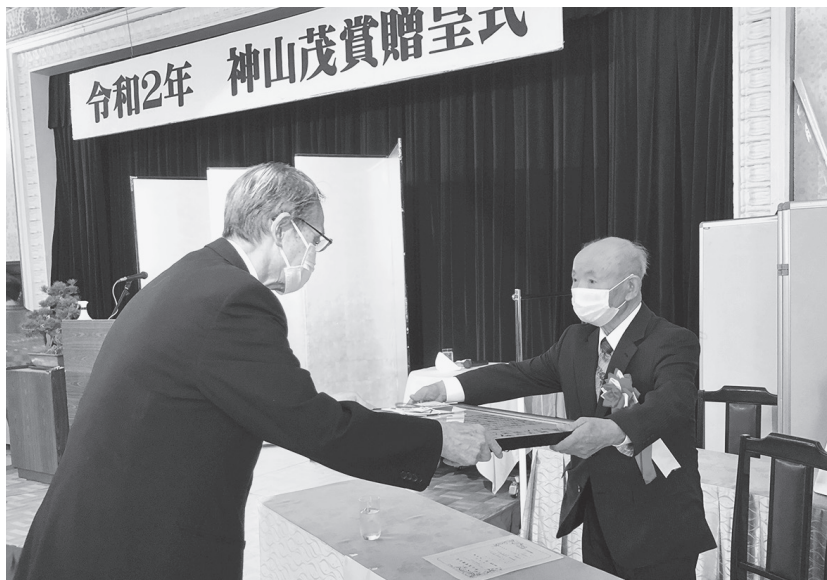
贈呈式では、函館文化会会長 金山正智が「これまでの活動は郷土の歴史の探究と継承にとって貴重なもので、郷土の文化振興に貢献している。今後一層の活躍を期待している」と讃え、その後、神山茂賞選考委員会委員長 安東璋二氏による審査経過報告、函館市長 工藤壽樹氏(代理)からの祝辞があり、受賞された館氏からは「一生懸命にやってきたことがこうして評価され、感謝に堪えない」との謝辞がありました。

贈呈式の後、館 和夫氏による「川田男爵の進取の気性と江差追分の癒しの力」と題しての受賞記念講演が行われ、「川田男爵は、土佐男のいごうそうと言われる頑固者だったが、使用人の面倒をよく見た。先祖の地位や財産に寄りかかること

なく、事業を興し雇用をつくり、今も栽培が続く“男爵薯”は地域の人々の暮らしを支えている」と解説されました。

受賞者を囲んでの祝賀会は、祝賀ステージで七飯男爵太鼓創作会(代表 高橋理沙氏)による和太鼓と篠笛による演奏に始まり、お祝いのメッセージや出席された既受賞者の方々の紹介のあと受賞者 館 和夫氏の「江差追分」の披露もあって、華やかな中にも和やかな雰囲気の中で盛会裡に終了いたしました。

なお、館氏の受賞記念講演の内容を、講演録で概要をご紹介します。



神山茂賞を受賞した館 和夫氏(右)



館氏の著書、編著、投稿誌など

「神山茂賞」受賞記念講演（令和2年11月7日）

## 川田男爵の進取の気性と江差追分の癒しの方

郷土史研究家 館 和 夫



講演中の館 和夫氏

思いがけない「神山茂賞」の受賞、そして、コロナ禍の中でこのような席を設けていただき光栄の極みでございます。改めて関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。それでは、受賞の感慨に浸りつつ話をさせていただきます。

### 川田男爵の進取の気性

後の男爵川田龍吉は、安政3年3月14日に現在の高知市旭元町に郷土の父小一郎、母美津の長男として生まれました。低い家柄の息子である龍吉は、藩校に入れませんでした。村の寺小屋に入り、その後は町場の福岡塾に通って学問の基礎を学びましたが、その間、門閥制度に対する反感は彼の胸中深く刻まれたことでしょう。

土佐の男は、ときにいごうそう（異骨相）と呼ばれることがあります。いわゆる頑固者の意味ですが、容易に信念を曲げない男に対する一種の誉め言葉であるようにも思われます。川田男爵は、まさに、そのような意味での典型的な土佐のいごうそうでした。

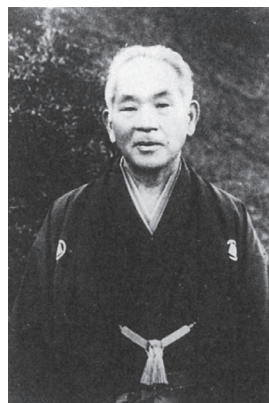
龍吉が15歳のとき、三菱商会の創始者である岩崎弥太郎の片腕として働いていた父が大阪に移り、龍吉も同地の英語学校に入ります。しかし、間もなく商会の本拠が東京の日本橋に移ったため、龍吉も上京して慶応義塾に入り、構内の医学所に通い始めます。ある日「医者馬鹿なり」と壁に落書きをして叱責され、嫌気がさしたのか、自ら塾を辞めてしまいます。しかし、そうした失敗の間にも彼は義塾の建学の理想である独立自尊・実

踐躬行の精神だけは、しっかりと身に付けて塾を去ったようです。

その後、父の意向に従って、造船工学を修めるため英国へ留学することになります。明治10年3月にインド経由で目的地のグラスゴーに着いた頃は、もう9月で、日本では西南戦争も終わっていました。

以後、7年間、龍吉はグラスゴー大学やレンフリーアの造船所で、船舶機械工学や操船技術などを学びました。そして留学期間も終わりに近い最後の1年半ほどの間に、ジェニー・エディーという19歳の書店の従業員と知り合い、恋仲になります。固く結婚の約束をしまして、必ず迎えに来るといって明治17年に帰って来るんですが、父の小一郎が頑として言う事を聞きません。ジェニーからの手紙は、一切、龍吉の手に渡らないようにしました。まさに生木を裂くように別れさせるわけです。そのため龍吉の胸には、終生癒えない心の傷が残ることになりました。

明治20年の夏、ようやく心の整理がついた龍吉の結婚相手に選ばれたのは、元土佐藩士楠瀬齊民の長女で、名を春猪といい、17歳になった当時は、高知小町と呼ばれていた評判の娘でした。やさしさの中にきりりとした気品を秘めた彼女は、料理上手で、ピアノを弾き、英語も少しは話せるといった開明的な素養を持つ女性でした。二人の間にはやがて長女の常子が生まれ、日本郵船に高給で迎えられた龍吉は仕事の方も順調で、一家は幸福に包まれています。その後、明治25年には横浜ドックに移り、着々と



川田龍吉男爵（1856—1951）



結婚当時の川田夫妻（明治20年7月）

実績を積んだ彼は、結婚後10年目の明治30年の1月、ついに横浜ドック社長の座に就くことになります。

この間、明治29年11月の父川田小一郎日銀総裁の死や、それに伴う家督相続、襲爵などあわただしい日々が続きました。一体に男爵は本業の造船関係事業が忙しい時ほど農事に関する関心もまた高まるようで、明治31年には軽井沢に別荘を造り、同33年には別に農用地200haを購入して、キャベツなど外人向けの清浄野菜の栽培や、洋馬の飼育・改良など、本格的な農牧業を始めたりしています。

男爵の前半生の主な功績と言え、まず、明治32年5月に開渠式が行われた横浜ドック会社の新ドック建設があげられるでしょう。ランドマークタワーの下に今もある石造の巨大ドックですが、この施設の完成を記念する銀製の銘板には、専務取締役川田龍吉の名が冒頭に刻まれています。空襲で100棟に及ぶドックの建物と機械は焼けましたが、地中に掘り込まれたドックは残りました。これは明治の産業遺産として未長く残ると思います。

横浜ドック在任中の川田男爵に関する興味ある話題としては、他に明治35年の秋、2500円もの大金を出して買った蒸気自動車の話があります。この自動車によってわが国初のオーナードライバーになった川田男爵は、毎朝、牛込の自宅から新橋駅まで自家用車で乗り付けて、我が国初の鉄道路線が横浜まで行き、帰りはその逆をたどる、といった方式で横浜へ通勤しました。自動車というものが、まだ我が国にほとんどなかった当時、朝夕東京のど真ん中を走るこの車は、人々の格好の話題になったことでしょう。

さて、人もうらやむ横浜ドック社長の座を、川田男爵は明治35年の暮れに惜しげもなく捨ててしまいました。その陰には資金運用などをめぐって日頃から一部の役員と対立していたことや、しだいに強まる軍部の経営干渉に対する抗議の気持ちがあったと思われる。

しかし、男爵が目論んだその後の悠々自適の生活を、世間は長く許してはくれませんでした。日露戦争当時、造船業界が陥った深刻な不況にあえぐ後発造船会社の救済が急がれていたからです。財界大御所の渋沢栄一から函館ドック再建への協力を依頼された川田男爵は、東大工学部卒の実弟豊吉と共に会社の診断に当たった結果、その将来性を見込んで協力することを決意し、明治39年4月、函館に着任しました。

函館に居を構えた男爵は、さっそく経理に詳しい近藤勝之助という人物を重役に加えて財務内容を分析し、当面の



復元された川田男爵の蒸気自動車（ロコモビル）

財務対策を講じました。それと共に社内の業務執行体制を改革し、機械設備を充実させ、優秀な技工を新たに募集するなど、抜本的な経営改善策を行って大赤字であった会社を再建したわけです。

その傍ら男爵は、5か月後には早くも七飯町に約10haの農地を購入し、清香園と名付けた自家農場を開きました。仕事の息抜きに必要としたのかもしれませんが、まさに農工一如を体現した形の男爵の生き方です。函館と七飯間10数キロの往復には、例のロコモビル蒸気自動車が大きいに役立ったことでしょう。

明治41年の春、川田男爵は英米両国から同時に10種余りの種薯を輸入しました。それらの中に、後日、アイリッシュユゴブラーと判明するアーリー・ベトスキーとサットンズ・フラワーポールという異名同種の種薯が混じっていたわけです。男爵自筆の輸入ノートには、それらの薯が明治41年5月6日に植えられ、5月25日には無事に発芽・成長していることを確認したことまで、きちんと書いてありました。

それから男爵の昔の使用人の方々を訪ねて歩いた時のこと、飯田さんという方の家でしたが、主人が出してきたのがくるくると巻いた2枚の障子紙のようなものでした。それには「口の泡より腕の汗」と、大きな太い字で書いてあります。見た瞬間、男爵自身が座右の銘を書いたものに違いないと思いました。

男爵の真骨頂というのは、この一言に込められた「農工一如・実践躬行」の精神にあるのではないのでしょうか。

とにかく親の地位に依ることなく、座食することを好まず、実業に励んで結果を残しても決して自ら誇ることなく、成果は社会に還元することを喜びとして生きた人だったように思います。

私自身も終戦前後の食料不足の頃、毎日のように男爵薯



男爵薯発祥の地記念碑（七飯町鳴川・清香園）

の塩煮をご飯代わりに食べて、その恩恵を受けました。そのように明治の末期から今日まで、凶作や不況、インフレ、戦争、自然災害などのため、多くの人々の生活が追い詰められた時、力強く支えてくれた男爵の御恩は、決して忘れられるものではありません。

明治44年7月、函館ドックの経営を弟に任せて職を退いてからも、男爵は函館地方の住民のため、数多くの貢献を果たしました。木古内、知内方面に続く湾岸道路は、雨が降るたびにぬかるんで馬車も通れず、人々が困り果てていた当時、当別丸という汽船を4艘も自費で函館ドックに作らせ、沿線に鉄道が敷かれるまで順次運航したということがあります。

また、昭和4年6月に駒ヶ岳が大噴火した際にも、いち早く鹿部の本別地区に2haほどの試作地を設け、新しい火山灰の上に、堆肥のほか海藻の屑や煮汁、七飯産の米糠など、地元産の有機肥料をたっぷり使って男爵薯などの野菜を育て、成功して見せました。それによって、人々が大いに励まされ、復興の力になったということです。これもまた男爵の進取の気性がもたらした大きな成果だったと言えるでしょう。

後半生の男爵は、函館地方で男爵薯の原種を輸入して普及のきっかけを作るといふ大仕事をやり、前記のような地域貢献を果たしながら、しかも、市内の大火や工場施設の暴風被害、資金の逼迫等の重なる困難を乗り越えて函館ドックを再建するという離れ業をやったのけたのです。明治末期以降、この地方に男爵が残した有形無形の功績は、計り知れません。戦後間もない昭和22年1月、91歳の老男爵は、銀座にあった全国食糧増産同志会に加入し、翌年、渡島当別に移住して自ら信奉する薯の栄養周期栽培（大井上農法）を試みましたが、成果はともかくとして、最後まで農事に

こだわった、その精神は立派だったと思います。

戦中戦後の頃は、老境を迎えた男爵にとって、つらい不幸が重なった時期でした。

春猪夫人はすでに昭和14年に69歳で在京中に亡くなっており、大正12年1月に28歳で病死した次男吉雄の記憶もさめやらぬまま、昭和19年4月には末娘のテレジア・季子が39歳で、また、21年2月には後継者として最も頼りにしていた五男の吉衛を43歳で、それぞれ結核で喪うという運命に直面しなければなりません。そればかりでなく、住み慣れた牛込の本邸は戦災で焼かれ、鎌倉の別荘も戦後、その一部が進駐軍に接収されるという憂き目にもあっています。

男爵の晩年にはトラピストの永田神父が、足しげく訪れては熱心にキリスト教の話をしてくれました。そのため男爵は、長い間「天皇に申し訳ない」と避けてきたキリスト教への入信を決意したようです。昭和23年7月28日、トラピスト修道院で洗礼の式を済ませた男爵は、93歳にして初めてカトリック教徒になりました。神の<sup>よみ</sup>嘉したまう人生の務めを全て果たし、過酷な試練に耐えた川田龍吉男爵は、昭和26年2月9日、95歳の生涯を渡島当別の自宅で静かに閉じました。遺骸は、遠く函館山を望む修道院裏の信者墓地に葬られ、永遠の眠りについています。

### 江差追分の癒しの力

私が少年時代から馴染んできた江差追分についても、少しお話しさせていただきます。

今、皆さんの耳に入るのは、大方、名人上手の唄う江差追分ばかりだと思います。でも、カセットテープのような形で一声残しておくだけで、その人の人柄も、その時の家庭の雰囲気でも皆、何となくわかるわけです。だから追分にはこういう使い方もある、下手なエンディングノートなんかよりは、ずっとましではないか、という風に私は思います。

昔、江差では銭湯の中などでよく追分を唄っていましたし、浜やケーソンなどでも唄っている人がいたようです。しかし、今はなかなか稽古場以外で唄っている人は見かけません。

もちろん仕事場では唄えないでしょうし、車の中も勧められません。散歩の途中とか、どこか差支えのないところで腹いっぱい唄えたら…と思います。私は山が好きですから山へ行って、昼休みの時などに藪の中で小さい声で唄いました。鼻唄追分の藪中追分ですね。

まあ、この追分節っていうのはですね、元は野中・山中、町の中、それに海の上など、それぞれ好きな場所で自由勝手に唄った唄ですから、伴奏もなければ、もちろん褒められたりとか、聞かせるっていうような意識もなく、上手に唄うとかは、そもそも本来の目的ではないんですね。自分を慰め、周りの人もいくらか慰め、和ませることができれば最高…、といったところです。節の基本を覚えたら後は自分なりの追分を唄えるように、また、聞き分けられるようになってほしい、それが最終目的で良いのではないかと私は思っています。

私がこういう話をしますと必ず「この唄を崩せていうのか」という問いが返ってきます。無論そうではありません。地域を代表するような優れた歌い手は、いつの時代も必要です。

しかし、唄の節を画一化し、歌い方の規則を過度に規制して煩雑にすればするほど個性も地方色もなくなり、素質に恵まれた人だけに門戸が開かれた難曲として敬遠される結果に終わるでしょう。要は、愛好者の裾野をどう広げ、この道の唄の仲間をどう増やすかということです。

追分に関しては、唄い手として競演会の上位を目指すほかに、伴奏、踊り、ソイ掛け、関係する分野の文献やレコード等のコレクションや、各種の古調や歴史を研究するなど、



江差追分全国大会（江差町文化ホール）

それぞれの好みで追分好きの道を活かす方法はいくらもあります。私としては現状を何か変えようとすれば、明治以来の、七節ある唄の文句の一節ずつを一息で、というような、老人や初心者にはちょっと難しい規則を少し緩めたら、もっと多くの人がこの唄を気楽に、のびのびと唄えていいのではないかと、など思ったりしています。尺八伴奏が入り、踊りのテンポが遅くなって以来、必要以上にこの唄の節が長くなり、間延びしてきていると思うからです。

本日は、川田男爵と江差追分という二つのテーマでこれまで集めた資料や情報、また、私の拙い体験や持論をもとに話をさせていただきました。長時間にわたりご清聴いただき、ありがとうございました。（終）

## 令和3年度「函館文化会講演会」を開催します

今年度も函館市中央図書館との共催で「函館文化会講演会」を次のとおり開催します。

今回は、講師に元(株)ニチロ取締役東京支社長 加藤清郎氏をお迎えし「北洋漁業と函館」～日魯漁業創業者 堤 清六氏没後90年にあたって～と題しての講演です。

北洋漁業は、戦前・戦後の昭和年代を通じて函館の地域経済を支える基幹産業でありました。その礎を築いた日魯漁業創業者である堤 清六氏が昭和6年（1931）に52歳という若さで早世してから今年で90年になります。函館における北洋漁業と堤清六氏の功績を中心に、その時代の背景などを含め、知られざる話なども紹介していただきます。

コロナ禍の中で若干ご不便をお掛けすることもあるかと思いますが、感染防止に万全を施しますので、会員皆さんはもとよりお近くの方にもお声がけいただき、聴講くださいますようお願いいたします。

- 開催日時 令和3年10月16日(土)  
午後1時30分開演（午後1時開場）
- 会場 函館市中央図書館 視聴覚ホール  
（函館市五稜郭町26-1）  
※事前の申込不要です。直接会場にお越し下さい。なお、新型コロナウイルス感染防止のため聴講定員を70名とさせていただきます。
- 演題 「北洋漁業と函館」  
～日魯漁業創業者 堤 清六氏没後90年にあたって～
- 講師 元(株)ニチロ取締役東京支社長 加藤清郎氏





## 令和2年度 函館文化会講演会

### 「函館・空の事件簿」を演題に開催されました

函館文化会では、令和2年10月17日(土) 函館市中央図書館視聴覚ホールにおいて「函館文化会講演会」を開催いたしました。本講演会は、文化振興事業の一環として函館市中央図書館との共催で毎年行われているもので、この度は北海道新聞社小樽支社長の相原秀起氏を講師にお招きして「函館・空の事件簿～全日空ハイジャック事件から見たもの～」と題しての講演で、新型コロナウイルス感染拡大で開催が危ぶまれておりましたが、会場定員の80%を上限にするなどの感染対策防止を図っての開催に、定員一杯の120名の会員・市民の参加で無事終了しました。

相原氏は、函館の空で起こった3つの事件・事故について当時の報道写真、新聞紙面などの資料の他、自身の取材を通してのエピソード、裏話などを交えて解説いただきました。

1971年の東亜国内航空のYS11「ばんだい号」が横津岳(1167m)に激突、乗客・乗員68名全員が死亡した事故、1976年当時ソ連の最新鋭戦闘機ミグ25が函館空港に強行着陸した事件については、フライトレコーダーを搭載するなど安全対策や防空体制の不備が問題となり防衛体制の確立につながったが、1995年の全日空857便ハイジャック事件は、道警捜査陣の強行突入で犯人を逮捕、あつけない結末に忘れ去られてしまい、セキュリティの強化にはつながらなかったことなど、函館の空で起きた3つの事故・事件は、航空史上でも特異性を持つものであると述べ、聴講された皆さんは相原氏の話に吸い込まれるように聞き入っていました。

今回は、聴覚障がいの方から聴講の要望があり、初めての試みでしたが函館市福祉事務所の協力を得て手話通訳者3名で同時通訳をしていただきました。また、新型コロナウイルス感染防止のため入場制限や感染防止実施のため、来場された皆さんにご不便をお掛けした場面もありましたが、ご協力に感謝します。

なお、今回の講演内容について、講師の相原氏に要約したものを纏めていただきました。今一度講演会当時を思い起こし、ご一読いただければと存じます。



講演会の行われた函館市中央図書館視聴覚ホール

令和2年度講演会 (令和2年10月17日)

## 函館・空の事件簿

～全日空機ハイジャック事件から見たもの～

北海道新聞社小樽支社長 相原秀起



講演中の相原秀起氏

歴史と伝統ある函館文化会の講演会にお招きいただき、ありがとうございます。本日は、「函館・空の事件簿～全日空機ハイジャック事件から見たもの～」をテーマにお話をさせていただきます。

津軽海峡に面した函館は、空と海の交通の要衝であり、空と海の大事件や大事故が数多く起きています。1954年(昭和29年)に起きた青函連絡船「洞爺丸」など5隻の連絡船が沈没した洞爺丸台風事故をはじめ、ほぼ20年に一度、

歴史に残る事件や事故が発生しているのです。1971年（昭和46年）には、東亜国内航空（現在日本航空）のYS11型機「ばんだい号」の墜落事故、1976年（昭和51年）には、ソ連のミグ25の亡命事件、1995年（平成7年）には全日空機ハイジャック事件が起きました。ばんだい号墜落事故、ミグ25亡命事件、全日空ハイジャック事件について、私たち北海道新聞（道新）の記者は「函館空の三大事件」と呼んでいます。全日空ハイジャック事件から20年後、私は2016年から2年間、北海道新聞函館支社の報道部長を務めていたのですが、2017年には陸上自衛隊機が北斗市の山中に墜落する事故が発生して4人の自衛官の方が亡くなっています。今回の講演では、この「函館空の三大事件」についてお話しします。

### ばんだい墜落

最初ばんだい号の墜落事故です。事故が起きたのは1971年7月3日、もう半世紀前になります。乗員と乗客計68人を乗せて、札幌・丘珠空港を飛び立った東亜国内航空のばんだい号が、函館空港に着陸する直前、消息を絶ちました。この北海道新聞の紙面は7月4日の朝刊(写真1)で、この4日朝の時点ではまだ機体は見つかっていません。南茅部町（2004年函館市と合併）の米田（まいだ）町長も乗っていました。4日午後、横津岳南西斜面に激突していた機体が発見され、68人全員の死亡が確認されました。後に話す全日空機ハイジャック事件で、捜査の中心だった佐藤直義・函館方面本部捜査課長は当時巡査で、ばんだい号の墜落現場で遺体の捜索に当たりました。現場は焼け焦げた機体、オイルの臭いが充満しており、佐藤さんらは、



(写真1) ばんだい号遭難を報じる道新の1971年7月4日の朝刊

ばらばらとなった遺体を集めたそうです。この写真は墜落現場に散乱する機体です(写真2)。



(写真2) ばんだい号の墜落現場

今年2020年は事故から五十回忌に当たりました。日本航空の関係者らが、横津岳の慰霊碑前で犠牲者の霊を慰め無事故運航を改めて誓いました。ご遺族

も高齢化して、大規模な慰霊祭は2003年が最後だそうです。一方で事故原因は今も確定していません。理由は、現在の旅客機には装備されているフライトレコーダー、レーダーも搭載されていませんでした。このばんだい号事故をきっかけにフライトレコーダーやレーダーの搭載など旅客機の安全対策が進みました。

### ミグ25亡命事件

2番目の事件が5年後の1976年に起きたソ連の戦闘機ミグ25の亡命事件です。この事件も函館の皆さんの脳裏に刻まれていることでしょう。米ソ冷戦下、よりによってソ連が誇る最新鋭戦闘機が函館に飛来し、パイロットが亡命するとは、まるで小説のような事件です。

強行着陸するミグ25の写真は、当時道新函館支社報道部に在籍していたカメラマンが撮影した、飛ぶミグ25を唯一撮影したものです。この写真は、この年の新聞協会賞を受賞しました。

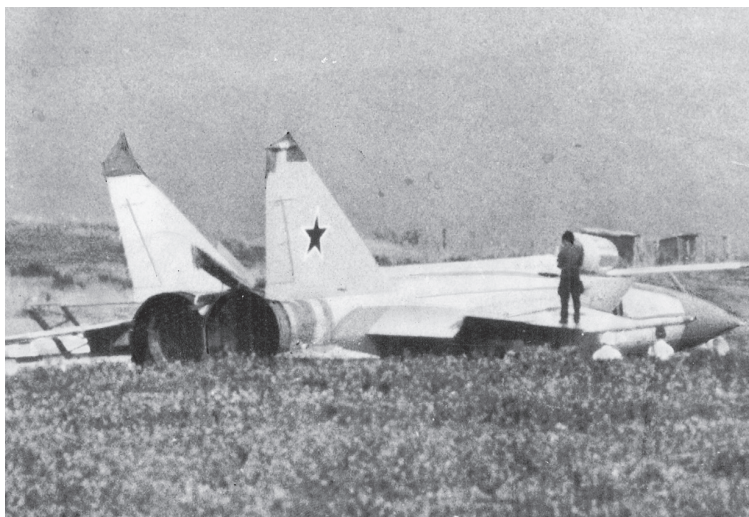
パイロットはソ連軍中尉のビクトル・ベレンコ、29歳でした。ソ連の体制に失望し自由にあこがれたベレンコは、妻と子との離別を決めて、ウラジオストク近郊の基地を離陸しました。高度5,800mから急降下し、海面上30mの超低空で北海道を目指します。墜落事故を装ったのです。目的地は千歳空港（当時）でした。ベレンコは日本の航空自衛隊の戦闘機ファントムがスクランブルしてくると期待し、ファントムを先導役に千歳に着陸するつもりだったのです。しかし、北海道の上空に達しても自衛隊機はやって来ません。実は航空自衛隊は途中でミグを見失っていたのです。燃料も少なくなり、ベレンコは焦ります。ミグは空気が濃い超低空の飛行で多くの燃料を消費してしまっていたので

す。雲の下に出たベレンコは函館を見つけ、視野に函館空港が入りました。そして、函館空港の滑走路に強引に滑り込んだのです。滑走路を逸脱してミグはようやく停止しました。ベレンコは祈ったそうです。「ミグよ。壊れないでくれ。大切なアメリカへの土産なんだ」と。

これが着陸直後のミグ25です（写真3）。尾翼の赤い星が見えます。この2基の巨大なエンジンが最高速度マッハ3の推進力を生みます。道新は当日夕刊最終版の一面トップを急ぎょ差し替えて事件の第一報を掲載しました。自衛隊はソ連軍がミグを破壊するため、ゲリラの攻撃や空から攻撃するのではないかと恐れ、陸上自衛隊函館駐屯地に戦車や高射砲などを配備し、非常事態に備えました。

事件から20年後、道新ワシントン特派員だった先川信一郎記者がベレンコの単独取材に成功しました。ベレンコの連絡先を入手し、留守番電話に連絡を入れると、ベレンコから返信があったそうです。ベレンコは「北海道という地名を懐かしく思った」と取材に応じた理由を語り、亡命後の人生についても詳しく話してくれたそうです。ベレンコは「北海道にもう一度行きたい」とも語りました。

函館空港に強行着陸後、ベレンコは道警によって函館市湯の川のホテルに収容されています。ベレンコは当時は振り返り、日本政府がソ連の圧力に屈して、自分を引き渡すのではないかと心配していたそうです。事情聴取をした日本の外務省職員に対して、ベレンコは「米国への亡命を希望する」と自らの意思を明確に示しました。すると職員は「あなたの意思に反して（ソ連に送り返すような）そんなことはしない」と約束し、ベレンコは心底ほっとしたそうです。



（写真3）函館空港に強行着陸したミグ25

ホテルの部屋は清潔で快適でしたが、ベレンコは一睡もできませんでした。

この写真は米国に向かうベレンコです（写真4）。搭乗したのは米ノースウエスト航空の旅客機でした。ベレンコは小さなエンジンを見て、「こんなおもちゃのようなエンジンで絶対に飛ぶわけがない」と反射的に思ったそうです。ロサンゼルスからは米CIA長官機でワシントンへ。米国到着後、約5カ月間にわたる米軍やCIA、国務省などの事情聴取の日々が始まります。ベレンコは、ボディガードらとともに隠れ家を転々とします。

米国は、ベレンコからソ連軍の指揮命令系統、その思考法、軍の士気などの機密情報を得ました。同時に、秘密のベールに包まれたミグ25を徹底的に分解して調査します。機体は、軽くて丈夫なチタン製ではなく鋼鉄製で、レーダーには真空管を使用しているなど、時代遅れの機体であることが判明。ただ、エンジンのパワーは米国と自衛隊関係者を驚かせました。



（写真4）米国に向かうベレンコ

当時、ソ連は中国を仮想敵国とし、ベレンコは中国空軍についても精通していました。ベレンコは世界各地の米国基地でソ連軍や中国空軍との戦い方を伝授します。東京や沖縄の米軍基地も訪問しました。ベレンコは「北海道にも行きたい」と希望を伝えたそうですが、米軍担当者は「とんでもない」と即座に拒絶しました。

1983年に大韓航空機撃墜事件が起きます。サハリン上空を領空侵犯した大韓航空機をソ連軍機が撃墜する大事件ですが、この際にベレンコは稚内の自衛隊基地が傍受したソ連軍パイロットと基地との無線交信の解読を依頼されました。彼は「最初から撃墜するつもりだ。ソ連軍基地の責任者は領空侵犯機をむぎむぎと逃がしたときの責任追及を恐れたのだ」と解説しました。

後にベストセラー作家となる作家トム・克蘭シーが小説「レッドオクトーバーを追え」を執筆中、ベレンコにインタビューしました。

小説の中で米国亡命を決めたソ連の最新鋭潜水艦の艦長と副長が語る場面があります。副長は「米国に亡命したらモンタナに住みたい。米国人女性と結婚したい」とつぶやきます。実はこれはベレンコ自身の希望でした。実際に彼はモンタナが気に入り、牧場を持ち、米国人女性と再婚したのです。

### 函館空港全日空機ハイジャック事件

ミグ25亡命事件から約20年後の1995年6月に起きたのが、函館空港を舞台にした全日空機ハイジャック事件です。この事件を題材に私は2019年、札幌の出版社柏艸舎からノンフィクション「ANA857便を奪還せよ 函館空港ハイジャック事件15時間の攻防」を出版しました。2003年に北海道新聞の函館版で17回連載をした記事に加筆したものです。この事件も特異な事件でした。平成という時代を映し出した事件だとも思います。猛毒サリン、オウム真理教、バブル景気からの転落、警察の特殊部隊SATが表舞台に初登場した事件でもありました。

事件が起きたのは1995年6月21日正午。山形県上空で羽田発函館行きの全日空857便が一人の男にハイジャックされました。男は客室乗務員に保冷バックと先が尖ったドライバーを突き出して、「すべては尊師のためだ」と脅します。その3カ月前、東京都内ではオウム真理教による地下鉄サリン事件が起きたばかりでした。オウム真理教の幹部たちが、教祖麻原彰晃を奪還するためにテロやハイジャック事件を起こすのではないかと週刊誌は書き立てていました。こうした背景から客室乗務員は「オウム真理教だ」と信じ込んだのです。

これが実際に犯行に使われた保冷バックですが、サリンが入っていると思わせたビニール袋の中身はただの水。「プラスチック爆弾」は工作用粘土の塊にガムテープを巻いたものでした(写真5)。唯一の凶器と言えるのはせいぜいドライバーです。いま考えると、バカバカしい事件ですが、オウム真理教による犯行と思ってしまう時代だったのです。

私は事件当日、サハリンの北部で取材中でした。事件の1カ月前に起き、2千人以上の死者を出したサハリン北部地震の震災地にいたのです。そこで函館のハイジャック事件を知り、現地取材に加わりたくて歯噛みしていました。そして、次にハイジャック機がロシア極東に来たらどうするか、と考えていたのです。

当時の政権は社会党党首の村山富市を首班とするいわゆ

る「自社さ連立内閣」でした。村山政権は、阪神淡路大震災の対応の遅れを糾弾され、地下鉄サリン事件などオウム真理教による一連の凶悪事件を防げず、この全日空ハイジャック事件でも失敗すれば「退陣やむなし」という瀬戸際の状況だったのです。

政府はついに切り札を切る決断をします。警視庁に極秘のうちに発足させていた特殊部隊「SAT」の投入です。SATは、対テロ用に特別な訓練を積んだ専門部隊で、装備も軽機関銃や閃光手榴弾、暗視装置など通常の警官や機動隊員とはまったく違います。道警の伊達興治本部長(当時)は、警察庁のキャリアでしたが、SATを発足時からよく知る人物でした。

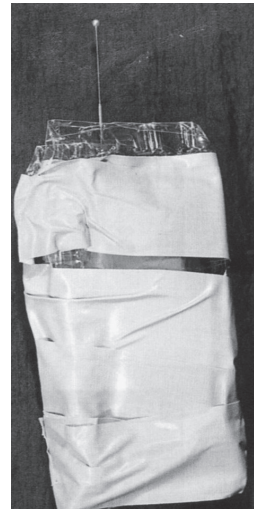
一方、地元の道警函館方面本部(通称・函本)の角地覚本部長は、犯人からの「給油をした後に羽田空港に戻れ」という要求を拒絶し、絶対に離陸させないと決めていました。墜落の危険や最終的に北朝鮮まで行ってしまった「よど号」の教訓からでした。

道警はさまざまな理由を付けて給油を拒みます。時間を稼いで乗客全員の身元を洗う作業を各都府県警と懸命に進めたのです。怪しい人物が複数乗ってればオウムによる組織的犯行の線が、単独犯ならばオウムとは無関係の可能性が強まります。

函館空港には全国から約500人もの新聞、テレビ、雑誌の記者たちが続々と集まり、騒然とした雰囲気になっていました。機内の犯人はいら立ち、「爆弾を爆発させる」など客室乗務員を再三脅し、捜査陣の中にも緊張が高まりました。

偶然、機内に居合わせた歌手加藤登紀子さんのバックバンドのメンバーが、当時まだ珍しかった携帯電話を使って110番通報に成功。機内の様子を逐次知らせ、道警は単独犯との見方を強めます。しかし、確証はありませんでした。

ハイジャック犯は東洋信託銀行(当時)のエリート行員でした。年齢は53歳。行内でも切れ者として有名で、バ



(写真5) 粘土で作った偽のプラスチック爆弾

ブル景気に踊り、銀座で愛人と子供を作った上、ペーパーカンパニーによって私腹を肥やしていたことが銀行に密告されて閉職に追いやられました。実の家族にも見放され、自分の生命保険金を家族と愛人に残すために自殺を考えたのです。その最期を飾るため、オウム真理教の教祖麻原彰晃を超法規的措置で釈放させて、刺し違えて自分も自殺する計画でした。「一瞬でもヒーローになって死にたい」という極めて身勝手な動機でハイジャックを行ったのです。

深夜零時過ぎ、函本の会議室に警視庁、道警、警察庁の幹部が集められ、最終的な作戦会議が開かれました。伊達本部長は夜明け前に突入する決断を下します。しかし、突入はS A Tではなく道警機動隊と刑事に任せられ、S A Tはドアの解錠などサポートに回るようになったのです。この時点ですでにオウム真理教による組織的犯罪の可能性が弱まり、それならば「切り札」の存在をまだ伏せておきたいとの思惑からです。

夜明け前を迎えた午前3時42分。ジャンボ機の前方三カ所のドアが同時に解錠され、突入班が一気に機内へとなだれ込みます(写真6)。犯人は唯一の武器ドライバーを振り上げて反撃しましたが、機動隊員の警棒の一撃によって崩れ落ちました(写真7は捜査員に両脇を抱えられ連行される犯人)。



(写真6) ANA 857便に突入しようとする道警の突入班

発生から15時間後、事件は無事に解決しましたが、あまりにきれいに終わったために、この事件は人々の記憶から忘れ去られたのです。道警は運輸省(現国土交通省)などに対して、機内に防犯カメラを設置すること、さらに空港のセキュリティを強化することを求めましたが、結局は実現しませんでした。事件から4年後、再び国内でハイジャック事件が起きて、機長が犯人によって刺殺されました。2001年には米国同時テロ事件が起きてから、ようや



(写真7) 逮捕され、機内から連行されるハイジャック犯

く空港の保安検査が強化されたのです。

ぼんだい号墜落事故は、機内のフライトレコーダーの設置やレーダー整備など運航上の安全対策につながり、ミグ25亡命事件の教訓から国籍不明機に対する対策が大きく改善されて防空体制の強化につながりました。つまり2つの事件の「失敗」は、その教訓が生かされることになりました。しかし、成功裡に終わった全日空機ハイジャック事件から日本社会は教訓を得ようとはしなかったのです。

この3つの事件を振り返り、私は日本について考えました。日本社会にとって教訓とは失敗から受けるものであって、成功からは教訓を得ないということです。

歴史を振り返れば、300万人もの国民が犠牲となった太平洋戦争、福島第一原発の重大事故がその最たるものです。半面でロシアにぎりぎりの勝利を収めた日露戦争からは何を学んだのでしょうか。3つの事故や事件から、私は日本人と日本社会の特異性を感じるのです。

これで本日の講演を終わらせていただきます。長時間にわたるご清聴に感謝申し上げます。(終)



講演会で、同時通訳をされた手話通訳者のみなさん

## 特集 函館の歴史と文化を語り継ぐ ⑥

### ～ テーマ「函館山」～

函館文化会が取り組む「郷土の歴史と文化」の伝承に因み、毎年発行する会報に函館の歴史・文化をテーマに取りあげ、会員の皆さんにそのテーマに沿った思いやエピソードなどを綴っていただき後世に残していきたいと、特集「函館の歴史と文化を語り継ぐ」を継続して取り組んでおります。

第6回を迎える今回のテーマは、“函館山”。別名「臥牛山」とも呼ばれ函館のシンボルとしての函館山、遠足や散策で幾度となく登った函館山、また、半世紀にわたり立ち入り禁止となったことで歴史と自然の宝庫でもある函館山、そんな「函館山（臥牛山）」にまつわる話を現在、函館山の管理を行っている（一財）函館市住宅都市施設公社西部公園事務所長 阪口等氏の特別寄稿をはじめ、8人の会員から投稿いただきましたので、ご紹介いたします。

なお、次号（第84号）第7回のテーマは“西部地区の街並み”としました。函館のまちの誕生と発展を語るときに避けて通ることが出来ない「西部地区の街並み」について、会員皆さんの思いやエピソードをお寄せください。応募の要領等は27ページを参照ください。



函館港から見る函館山

## 歴史が刻まれる自然の宝庫“函館山”

（一財）函館市住宅施設公社 西部公園事務所長 阪口 等



函館山は、約100万年前に火山活動や地殻変動によって出現した島です。その後、島と向かい側にある亀田半島の間には砂州が形成され、約5,000年前には、中央部分がくびれた現在のような独特の地形「陸繋島（トンボロ）」ができました。三方が海に囲まれ、標高約334m、周囲約9km、別名「臥牛山」とも呼ばれています。因みに函館山とは、一番標高の高い御殿山を始めとした、薬師山・汐見山・観音山・エゾダテ山など13の山々からなる総称です。

幼い頃、杉並町に住んでいた私にとって、遙か南の方角に屏風の如くそびえる函館山は威風堂々とした、そして神秘的なパールに包まれたとても大きな存在でした。

その函館山と私の出会いを思い起こすと、遡ること今から50年以上前の幼い頃、当時、体育の日に函館市が主催する年中行事、「函館山市民ハイキング（※イベント名?）」に参加し、鬱蒼とした杉木立ちに包まれた旧登山道コースを父親と妹とで、ハーハー息を切らしながら千畳敷まで登ったのが初めだったと記憶しています。

幼い自分には、険しい山道を登り切ったことにより、心地よい達成感と開放感に満たされ、函館山がとても身近な存在になったように思えました。以降この行事が楽しみとなり、何年か続けて参加しました。登頂後には、参加者全員でラジオ体操をしたのも懐かしい思い出として残っています。

その後小学校低学年の春の遠足で函館山登山があり、頂上付近では頑強そうなコンクリートで造られた地下室のよ

うな施設の中を探検した記憶が微かに残っています。真っ暗でひんやりとしていて、街なかではとっくに融けてしまった雪が、そこにはまだ大きな固まりで残っていたのが印象的でした。今思えばどうやら、現在崩落の危険性があるため立入禁止としている、旧御殿山第2砲台にある弾薬庫だったようです。遠い朧気な記憶と今とをやっと繋げることができました。

平成11年に函館山管理事務所に勤務することとなった私は、旧砲台跡を初めとする数々の歴史の爪痕や多種多様な動植物が棲息する自然の豊かさにすっかり魅了され、そして、現在もなおそれらを伝えるべく自然ガイドとしての役割を担い、麓にある事務所に勤務し、日々登山者が安全で楽しく利用できるためのお手伝いをしています。今日も事務所の外から窓越しに、“ウグイスの谷渡り”が、“オオルリの囀り”が、そして、飛び交う登山者の声が聞こえてきます。

函館山は日本有数の景勝地です。取り分け、御殿山山頂からの眺望は絶景です。左右を海に囲まれた特徴的な市街地の景色は、日本に関するフランスの旅行ガイド「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン 改定第2版」で、「函館山の眺望」として三つ星にランクされるほどです。トワイライトタイムには、ロープウェイに乗るため国内外からの観光客が長蛇の列をなします。かなり以前に、世界的な絶景スポットとして東洋の真珠とも呼ばれる香港のビクトリアピークから望む夜景観賞を体験したことがあります。ビクトリアハーバーや高層ビル群を見下ろす景色は当然素晴らしいものでしたが、その時私は心の中で、鼻屑目ではなく、「函館山の眺望」に軍配を上げていました。自然の地形が生み出す宝石をちりばめたような函館山から見下ろす夜景は、まさしく函館市民の誇りなのです。

函館要塞は、日清戦争終結後、日露戦争を想定し北日本の交通の要である函館港の防衛強化を目的に明治31年(1898)からの4年間で建設されました。その後、第二次世界大戦終結の昭和20年(1945)までの約半世紀の間、函館山は要塞地帯法により一般市民の立ち入りや撮影が一切禁止されていました。今でも往事の姿をある程度とどめているこの大要塞、実は残存する資料も乏しい中、20年余り以前に、当時函館産業遺産研究会(富岡由夫会長)等が、くまなく実態調査と測量などを行ったことにより、新



戦闘司令部吹抜部より望む御殿山山頂

たに旧海軍司令部や観測所跡などが見つかり、全貌が露わになりました。調査結果については非常に興味をそそられるもので、研究会の会誌に載せられています。

調査も半ば終了した夏の炎天下、山麓で偶然富岡会長とお会いしました。額に汗を浮かべ山の頂上を見上げながら、「将来この貴重な産業遺産を、世界遺産登録に向け是非取り組んでいきたい」と仰っていたのを、今でも時折思い出します。この函館山の要塞跡は、大規模な軍事土木遺産として全国的にも珍しいことから、平成13年(2001)10月、「函館山と砲台跡」として北海道遺産に選定されています。

この山は極めて豊かな自然環境に恵まれています。第二次世界大戦終結の昭和20年(1945)までの約半世紀の間、要塞地帯法により一般市民の立入が禁止されていたことにより、植物にとっては恵まれた自然環境が保たれていることが一つの大きな要因と言われてきました。一方、御殿山砲台・千疊敷砲台など5か所の砲台や数十カ所に及ぶ軍事施設の建築のためにどれだけの自然が破壊されたのかも併せて憶えておかななくてはならないと考えます。北海道学芸大学函館分校 菅原繁蔵氏は終戦後函館山が解放されると共に、函館山植物の研究を行った結果、356属650種に及ぶ植物を観察され「函館山植物誌」を刊行されています。その中には、北海道のレッドデータブックのリストに載るものも多く確認されています。海峡に突き出ている三方が海に囲まれている函館山は、野鳥の生息地として、また、海峡を通過する渡り鳥の休息地としても知られています。年間を通すと約150種の野鳥が見られ、鳥獣保護区特別保護地区に指定されています。市街地に隣接する低山としては、奇跡とも言える多様な自然環境が存在します。駐車場は早朝から野鳥観察や山野草観賞などのための登山者で混

み合います。

植物においては、ほぼ函館山の代名詞と言われるコジマエンレイソウを初め、山麓辺りから既に貴重なスマレ、ユリ、ランの仲間などが見られます。近年残念なことに、ほんのわずかしか棲息しないランなどの、盗掘や切り取りなどの被害が絶えません。身勝手な採取行為により、他の山々とは繋がらない独立峰函館山では、あっという間に絶滅が危惧されるまでの状況に陥ります。とても残念で悲しいことです。

私達は、豊かな自然環境を将来に引き継ぐために、市民やボランティアさんの協力を得ながら、それらの保全に係

わる取り組みを進めていかなければなりません。

「観光、歴史、自然において市民のシンボルである宝の山」私自身も、この函館山の魅力を次世代に引き継ぐべく語り部としても、微力ではありますが、お役に立てばと思っています。



さかぐち ひとし 昭和31年函館市生まれ、平成11年（一財）函館市住宅施設公社・函館山管理事務所勤務、北海道アウトドアガイド（自然分野）資格取得し、現在西部公園事務所所長。



## 緑の臥牛山

橋 田 恭 一

「火柱にはためく峰も 年古て  
緑の臥牛 宇賀の浦 風の砂山  
波寄せてくずれ流るる〜♪」母校

の校歌の一節である。3年間歌い続けると自然と愛着が湧いてくる。

函館市内の小・中・高等学校で歌い継がれる校歌の中に臥牛山・宇賀の浦・巴港など郷土の自然がその歴史とともに美しく歌われている。その中でも冒頭の一節は函館山の成り立ちを悠久の彼方から連綿と続く存在として表現している。どんな山にも現在に至る歴史がある。その山に伝えられる歴史を振り返りながら日々を送りたいものだ。

函館山の誕生は100万年前噴火により噴出した溶岩が固まったものである。長い年月の間に地殻変動や風雨、海流などの浸食により小さな島として形づくられたと言われている。その後、削られた土砂は海流に運ばれて堆積し砂州となり、北海道と繋がり陸繋島として現在に至る。函館の街は函館山により形成されたものなのだ。

山は津軽海峡側から見れば「東海の小島」と石川啄木が歌ったのも、渡島半島から突き出た砂州の先端に位置する状況からではないかと文芸評論家亀井勝一郎が言ったようである。（「ふるさと回想」村井雄二郎著）同感だ。

伊能忠敬が蝦夷地測量の第一歩を函館山で記したのは200年前のこと。どんな思いで山に登ったのだろうか。頂

上にはブラキストンのレリーフが設置されている。海峡を挟んで本州と北海道の動植物の分布の違いを発見した人だ。

小学生の遠足時、建物のない原っぱ状態の頂上で昼食をとり、7合目付近の砲台跡で探検と称して友と遊んだのも懐かしい思い出だ。ほんの7、8年前まで軍事要塞があるこの山には立ち入り禁止なのだと言われながら教えられていた。因みに、この砲台が機能したのは、昭和19年に海峡を通る潜水艦を目がけて砲弾8発発射されたのが最初で最後だったらしい。

戦後、開放されてから市民の憩いの場として賑わう。更に、展望台やロープウェイが設置されて観光資源として価値が高まることになる。昭和32年、週刊誌の新日本百景の企画により1位となり、百万ドルの夜景として観光客の誘致に多大の貢献をしている。



函館山千畳敷から山頂を臨む



人生の終末期を迎えている今、函館山は自分にとって生きる糧となっている。人間誰しも老いとともに迫ってくるのは健康上の課題である。とりわけ脚の衰えは五体細部に影響する。人生第二の職場をリタイヤした66歳の時、その後の人生設計の中に健康づくりを最優先することにした。山登りをメインに据え、まずは函館山をステージとした。日吉町の自宅から山麓までの約8kmを自転車で往復する。

登りは旧登山道を中心に、7合目の駐車場を横切り階段を経て頂上へ。一年目は張り切って100回ほど登っただろうか。それから14年間、随分回数も重ねることになった。函館山散策コースは旧登山道コースに加えて、薬師山コース、千畳敷コース、七曲コースなどバラエティーに富んでいる。その日の体調に合わせてコースを選ぶことになる。

函館山に通い始めて3年目から妻も同行することになった。それは、夫婦で富士山や槍ヶ岳、北岳などの山々を目指したことから、基礎体力の強化を図るために函館山通いは頻回となった。加えて、妻の趣味に影響されて草花の観賞も楽しみのひとつになった。ゆったりとした気持ちはコースの選定にも表れ、7合目駐車場から千畳敷コースへ。途中ベンチでコーヒータイムをとり、山の裏側を観察しながら歩き、牛の背見晴所で市街地をじっくり眺めるのが最近の定番となっている。

雪どけの春、木々の枝に広がる芽吹きは老体に活力を与えてくれる。薬師山コースのロープウェイケーブル下付近と7合目観光道路付近には福寿草の群生が観られる。4月末からは、ソメイヨシノやヤマザクラなど桜の競演だ。その後、市民団体がボランティアで育てたヤマツツジが目を楽ませてくれる。ある日、下山中に登ってきた女性に「シラネアオイは咲いていますか？」との問いに。「・・・？」。以来、登山道の両側を注意深く観察するようになった。か

なり広範囲に咲いていることが分かった。お陰で岩手山に登山中、7合目付近に広く群生するシラネアオイに遭遇し大感激したことがある。

楽しみは草花だけではない。空気の澄んだ11月、津軽半島の一角に三角形の山容が見える。山に詳しい友人に確かめると、津軽平野に聳える岩木山だと分かった。翌年の5月初旬、いつものように7合目付近で津軽海峡を望むと、残雪に覆われた岩木山が確認できたのだ。

山道を歩いていると思わぬ人との交流もある。先日熱心にウツギの葉にカメラを向けている旧知の大学の先生。尋ねると新種のウツギと教えてくれた。卒論指導のためにルーペ片手に熱心に学生を指導していることもある。学生にとって函館山は研究の場でもあるのだ。そんな中、静かな新緑の山に突然響く子供たちの声。元気いっばいの幼稚園児の登場だ。こちらの表情も自然に緩んでしまう。また、今年はコロナウイルスの影響でクルーズ船の入港はゼロだが、例年、乗船客とおぼしき外国人の登山客も散見される。ブロークンな英語でスキンシップを図るのも、リピーターとして再度の来函を願う函館愛のなせる業なのだ。

変化の少ない日常の中で新たな発見は心を活性化してくれる。自分にとって函館山は生活の一部に繰り込まれている。この先どんな変貌を遂げようとも、私にとって緑濃き臥牛山は心に安らぎもたらし生きるエネルギーを与えてくれる貴重な存在である。



はしだ きょういち 昭和16年函館に生まれ。北海道学芸大学函館分校卒業後、松前町立館浜小学校、函館市立亀田中学校・的場中・附属中を経て、北海道後志教育局・函館市教育委員会指導主事、市内3校の校長を歴任し平成14年退職。平成16年～平成28年函館市教育委員、教育委員長を務める。



## 函館山との語らい

梶原 佑 倅

我が家の2階の食卓の窓から函館山、臥牛の姿を日々眺めている。娘2人は、東京・横浜に嫁いで久しい。もう何年も前だが長女と山からの夜景を見た。世界

三大夜景と言われるだけに実に美しい。娘に聞く、「素晴らしいね、どうしてこんなに奇麗なんだろう。どう思う。何故？」と、変な質問である。天から地に散りばめられた綺麗星のよう、縦横に…、しかし、答えがない。眼前の事

実そのままが答えなのだろう。暫しの沈黙の後、私は「それはね、左右に真っ黒な海があるからだよ。輝きだけだったら、東京、ラスベガスなんかの方がすごいわ。黒い暗い海、黒の曲線の中だから夜景が際立って見える。外のお陰と思うよ」と。日中太陽の光で物が見えるのは、宇宙に遍満している塵のお陰と聞いたこともある。紫陽花は雨に打たれてよりその色を濃くすると。今、幸せなのは、多くの棄嫌が隠されているから…、と伝えたかった。長女は3年の地元教職勤務の後、東京へ転校した。親の知らないうちに都の試験を受け函館を離れ、小さな光の点が山から消えた。

長男、長女は若気の至りで聊かスパルタ式だった。文武両道と休む間もなかったろう。親も期待を糧に家業に勤む日々だった。その点次女は可愛さが先行した。毎夜この子を抱いて2階へ上がって「誰が一番好き?」「お父さん」と言わせた。「5歳になったら一緒に何処へ行くの?」「東京」。13年後、横浜の学校へ。就職は是非函館にと、知人の紹介であとは面接とまで、親は先走った。その旨横浜へ手紙を送ったが帰って来ない。飛行機ではなく、寝台列車かもしれない。眠らず待った。夜が明け初める。

午前五時夜汽車に〇〇子もしや来る

臥牛の山は紅差し行けど

朝焼けに映えた函館山は美しかった。より辛かった。ご紹介下さった方へのお詫びの足は重かった。娘の後日談、「親の敷いたレールの上はどうもー」と、そして東京に就職。それもこれも本人の選択である。子離れ出来ない親はしょんぼり、また夜景の灯が朧になった。

数年前。大阪から新幹線に乗車。隣席にとある女性が座っ



旗手・祖父 梶原與平。大正9年4月(32歳)(同年4月12日往生)

た。プロ歌手だった。話の弾みに函館を舞台の歌詞の依頼を受けた。

想いを散りばめ 煌めく夜景

長い年月を それぞれに

生きて来ました 今一度

焼き付くあなたの 瞳と声を

あゝ函館 別れの海峡 再びの

(二番略)

朱い実つけます 浜茄子ならば

運命さだめ哀しい さよならと

見つめ握る手 傷む胸

あなたの倅せ 五稜の星に

あゝ函館 別れの海峡 越えて行く

(「別れの海峡」DAM No.5873-17)

何とも甘ったるいお恥ずかしい詞である。「あなた」は男女どちらか。ペンネーム高橋操(祖母の旧姓)の操がどちらにもとれるように。ロマンチックに函館山から2人は夜景を見る。各々に長い年月が流れ、想いは散りばめられ、煌めくこの眼下の光のように深い。しかし作詞者の本当のモデルは、20歳で浄土へ旅立った故長男である。愛惜の念。その瞳と声。上野駅で別れた。越えて去かねばならない道は続いている。娘2人を呼び寄せたかったのである。

中学生の頃から、いつも近くの埠頭へ夕日を見に通った。自転車なら数分。左に函館山のなだらかな線を見ながら問答を続けた、職業選択の。明治初期からの家業を継ぐかどうか、自分はどうしても別の道に進みたい。二代目が早世。父6歳喪主の新聞記事も見た。祖母の辛酸。父の再興。長男の私への期待。姉弟妹五人。母のこと。答が出ない。山

に間い海を見る。落日を追う。その頃手にした一冊の薄い本。『正法眼蔵随聞記』(第一の四)

「一日示して云く、人其家に生れ其道に入らば、先づ其稼業を修すべしと。知るべきなり。我道にあらず己が分にあらざらんことを知り修するは即ち非なり。今も出家人として佛家に入り、」(後略)

私は商家の長男として生まれた。「其稼業」を継ぐべし、と悩んだ。長い疑問だった。22歳の私は東京より戻り1年間卸会社勤務、家業を継いだ。今思う。道元禅師は「稼業を修すべし」とお示しである。「継ぐべし」ではない。今の

自分の立ち位置（一所）に懸命であれよと。「其家に生れ<sup>うま</sup>」とは既に今立つこの場のこと。むしろ「生<sup>しう</sup>」と訓むべきでは。今!!と言った瞬間、<sup>すで</sup>己に過去である。人生は過去の連続である。たまたま縁としてこの場にあるのみ。そのことに徹せよと。「今も」に続いていた。「今」は英語でpresentと聞いた。与えられたのである。劫初<sup>こつしよ</sup>の連続だ。時を縁とし恩とし過去なる今を生き修すべしと。職業選択を宿命的にとらえるべきではない。

古里と定むる方のなき時は

いづくに行くも家路なりけり（夢窓疎石）

家を継ぐも否も、悩んでいる今も徹底悩めよ、その結果どちらに行くも（家路・古里）可なり。選択した場（すでに過去なる而今）に徹し修すべしと。「前後際断」の教えであろう。「鳥もし空をいづれば、たちまちに死す。魚も

し水をいづれば、たちまちに死す。』（『正法眼蔵』現成公案）

沢木興道老師は、いつも「ジタバタするな」「打ち方止め」とお教え下された。無量壽<sup>アミータ</sup>に導かれ子供らも古里を離れた家路を歩いている。臥牛の山がキラキラと語りかける…。「しかもかくのごとくなりといえども、華は愛惜にちり、<sup>くま</sup>艸は棄嫌におふるのみなり」（同前）「而今の山水は、古佛の道<sup>にこん</sup>現成なり。ともに法位に住して…」（『正法眼蔵』山水経）。



かじはら ゆうこう 昭和16年函館生まれ。國學院大學文学部卒業後、家業（米穀商4代目継職）。平成18年（64歳）龍谷大学大学院修士課程真宗学専攻終了。本願寺派布教使。全国布教同志会北海道支部長。作詞家ペンネーム高橋操。短歌結社「原始林」同人。合名会社梶原商店代表社員。



## 絶賛！函館山

岡崎圭子

今朝は雨が降っていない。風も弱い。私の体調も悪くない。諸事都合も良い。「そうだ。函館山を

登ろう」私の函館山散策は、こうして始まる。40代からの今日まで、年に数回の山詣である。

旧登山道から始まる、ゆっくり歩いて片道50分ほどの旅。沿道の樹々のトンネルからは惜しみなく緑の光陰が降り注ぐ。函館山ワールドに没入して間もなく車道に出る。車道を渡って後の山肌はいささか勾配が急になる。息をぎらして木の階段を登り詰めると再び車道が現れる。次のステージへの入口がこの句碑だ。

「緑の山 紺青の海 美しきかな 函館」

単純にして明快、函館の景観美ここに極まれりとばかりの名句に迎えられ、ここからはゆったりとした道筋が始まる。道端の樹々や草花を観察するゆとりも出てくるというものだ。あとは、ひたすら函館山を味わいながら歩を進めるのみである。途中、時々後ろを振り向いて、下り坂の景観を眺めるのが私の楽しみである。

いよいよ上り詰めた先で、丁字路に出くわす。右へ行くか、左に行くか。私は迷わず左を選ぶ。道は平坦となり眼

下に市街地が姿を現す。陸繋島のくびれと末広りの海岸線。西部地区の教会群。美しいものに触れた感動とほどよい疲労感。仕事や日常では、なかなか得られない達成感。これらが無いまぜとなって、いやがうえにもクライマックスが迫ってくる。往路のゴールは千畳敷である。四阿に腰を下ろして、持参のお茶とお菓子を楽しみながら、ひと息つく。函館山は清々しい。



登山道の車道を見下ろす句碑

さて、そろそろ帰ろうか。まずは先ほどの丁字路まで戻り、それからは往路の坂を下らず、まっすぐに進んでいく。左手には絶壁の岩肌とおだやかな穴間の海が好対象となって続いていく。「火曜サスペンス劇場で犯人の独白が始まる場面だ」と、私は思ったものである。絶景の反対側もまた絶景である。もはや登ることもなく平坦地の散策を楽しめるのも、この道のいいところだ。

やがて山麓駐車場にたどり着く。海をやさしく包みこむ対岸の山々に好感を抱きながら、サスペンスが起ころうともなくドラマは終わる。

ここからは下り坂となる。下りは身軽で速い。むしろ走り出さないように気を付けなければならないほどだ。旧登山道の駐車場まで一気に下り、函館山とは別れを惜しむこととなる。

これが私の函館山の登山ルートである。自然を求めて歩くのだが、意外と人も多いし知人に出会うこともある。それだけ函館山を愛する市民が多いのだと思う。

数年前に、東京都のオアシス、高尾山に登ったことがある。徒歩での登山道は、山をぐるぐる回りながら頂上まで整備されている。だが、そのほとんどがアスファルトの舗装道路である。急な舗装道路を登るのは、殺伐として疲れ、自然の安らぎも半減である。自然に手を加えるのは最小限とし、翻って、函館山の自然をいつまでも大切にすべきと痛感した。

最後に、函館山散策の思い出を少しばかり。

息子が高校に入学して間もない頃、息子を誘って登ったことがあった。入学後まだ緊張していた時期だったので、気分転換に思っただけのことだった。あまり乗り気でなかった息子は、一転、猿のように身軽にして颯爽と山を駆けていった。私は、函館山に癒しの力を感じたものである。

また、40代後半のあるとき、友人と一緒に登山開始したが、二合目あたりで息があがって先に進めなくなってしまった。早くも足腰が弱ったのかと愕然としたが、後に病院で検査をしたところ、極度の貧血が判明。幸い入院加療を経て函館山に復帰でき、今日に至っている。山は健康のバロメータである。

今春、私は第2の就職先を退職した。初めて教職に就き、学生の瑞々しい感性に大いに刺激を受けた貴重な時間であった。退職後に、同じく退職した先生と一緒に、私の函館山登山ルートを散策した。これまでの仕事を顧みでの思い出話や、これからのことを徒然に語り合い、楽しいひと時を過ごすことができた。

こうして改めて、函館山と私の関わりを振り返ってみると、ささやかではあるが人生の折々に函館山が現れる。これからも体力の続く限り、函館山との旧知の仲を続けていきたいと願っている。



おかげさ けいこ 昭和32年函館生まれ。早稲田大学卒業後、函館市役所に奉職。子ども未来部などの勤務を経て定年退職。現在は函館短期大学非常勤講師。



## 函館山と巴のこと

川見順春

函館文化会の会報が、今号より「巴響」(はきょう)という名称になった。函館には巴を冠した名称が甚だ多く、函館市の市章も右一つ巴である。それは勿論函館湾が巴の形に似ているところから「巴の港」として親しまれてきたことによるものだろう。広島県の福山市に「鞆の浦」(とものうら)があるが、函館と同じ右一つ巴に似ている。

今号のテーマは「函館山」である。

函館山の麓の谷地頭町に私の勤める函館総鎮守函館八幡宮が鎮座している。全国にある八幡宮、八幡神社は武家が勧請したものが殆どである。その神社の紋は三つ巴である事が多い。そして函館八幡宮の御祭神の名前が「巴」と深くつながり関係しているのだ。御祭神の名前の事は後述することに。

さて函館山の麓には実に多くの宗教施設が建ち並んでいる。この函館山の麓の光景を寛容で多様性があるといわれる日本人は、さほど抵抗感を持たないのではないと思われる。そしてこの宗教施設の混合は、世界的に見ても稀有な佇まいだろう。世界宗教者会議なるものがあるが、開催地には打って付の、云わば「宗教の坩堝」的なところであり、それは巴をも連想させる。世界遺産にでもなりえるのではないかというのは烏滸がましいか。

麓の様々な宗教施設ではそれぞれを尊宗信仰する人達が、函館山に向かって、それぞれの作法で祈っていることだろう。函館山は地元の人々にとっては「祈りの山」として在り続ける事だろう。勿論観光客にとっても夜景を愛でるための山で有り続けることは間違いない。

またランドマークとしての函館山も人は皆、無意識のうちに心に刻まれているのではないか。私は函館に来てからまだ日が浅いが、道内出張の際に車で大沼から坂を下って帰って来て、徐々に開ける視界の中に函館山を見つけた時、「あー帰って来た」と、また青森からのフェリーで函館山を眺め続けるのも心の底に函館山の存在が大きくあって、安心して落ち着くと言う事だろう。

函館山の麓には国の重要文化財の建物が多い。函館八幡宮はその昔、元町の八幡坂の上にご鎮座していた。明治13年の函館大火により類焼し谷地頭にご遷座となった。その後大正4年に一段高い今の所を切り開き再びご遷座され、旧本殿跡に池を造り今に至っている。その池は巴の形に似た「勾玉池」である。

ところで、函館八幡宮の歴代宮司に伊達巽がいる。昭和21年から同27年にかけてお勤めしていた。その後函館八幡宮から明治神宮の権宮司に転任し、戦災で焼失した社殿を昭和33年に復興させ、昭和47年に民間から初めて明治神宮宮司に就任した同神宮の功労者である。その伊達宮司が中心になって建てた明治神宮のご社殿の屋根の葺き替えをご鎮座百年の記念事業として行い、その工事が令和2年に完遂した。そしてその建物群が国の重要文化財に指定されたのである。函館八幡宮の本殿拝殿は大正4年の建立の事は前に触れているが、実は戦災で焼失した明治神宮の御社殿は大正9年のものであり、その双方の設計施工は時の神社建築の第一人者が行った。現に明治神宮の建築様式の説明書の中に、函館八幡宮が写真入りで比較説明されている。今函館八幡宮では屋根の葺き替え事業を進めているが、明



聖帝八棟造り社殿の函館八幡宮

治神宮の今回の工事に携わった方に確認したところ、函館八幡宮も十分に国の文化財として働きかけが出来るものだろうと言う事であった。函館には文化財の建物が多い中、皆様のご協力を得て是非とも函館八幡宮を国の重要文化財に指定されたいと思う次第である。

さて次に御祭神の名前について記したい。

函館八幡宮の主祭神は、応神天皇である。別称は複数ある中で誉田別尊（ほむだわけのみこと）また大鞆和氣命（おおともわけのみこと）とも称される。日本書紀に「(前略)既産之、宍生腕上、其形如鞆、(中略)故稱其名謂譽田天皇。上古時俗、號鞆謂褒武多焉(後略)」とある。すなわち応神天皇がお生まれになったとき腕に肉がついていて、それが鞆の形の如くであり、いにしえでは俗に鞆の事を褒武多『ほむた』と言ったと記されている。日本書紀が千三百年前のものであるのに、その時点で上古(いにしえ)とは神代の時代かなと思うが、この事から「ほむた」「とも」が御祭神の名前の由来なのである。応神天皇の名は漢称の諡(おくりな)である。

そもそも鞆とはどのような形で何なのかというと、勾玉の形に似ていて、弓術武具の一つである。弓を射る時に弓を持つ腕に弦が直接当たらない様にする袋状の緩衝具の事である。そしてそれを絵にした「鞆絵」(ともえ)が巴なのだ。

函館八幡宮の御祭神である応神天皇は弓術の名人だったと言われ、武運長久・出世開運の神様である。函館八幡宮は正月初詣参拝者も多く、皆様に広く篤く尊宗されている事を大変有難く思うのであります。

巴の海に囲まれ心の拠り所のランドマークとして存在する函館山。その麓にある函館八幡宮の御祭神を通して、巴

の形と名前と意味が三つ巴となって絡み合う、その説明が出来た事は、函館文化会会報の名称が今号から「巴響」になったのに相応しい掘り起こしであったのではないかと思います。

最後にこの拙稿の掲載の許しを賜った関係者の方々に深く感謝申し上げますとともに、函館文化会の益々のご発展ご隆昌を心よりお祈り申し上げます。

(追記)

火難除けとして渦潮の水を連想させる「流れ三つ巴」を屋根の瓦や銅板の装飾に施す風習がある。大火の多かった函館にも多く見かけられるものです。



**かわみ よりはる** 昭和30年歌志内市生まれ。昭和53年國學院大學文学部神道学科卒業後、神奈川県寒川町にご鎮座の相模之國一宮寒川神社奉職、39年間奉職後、函館総鎮守函館八幡宮宮司に就任し現在に至る。自宅は、神奈川県平塚市で単身赴任中。



## 函館山とルリビタキ

佐藤 理夫

私が大学を卒業し、函館に戻ってきたのは1980年になります。

自分の将来に対して、はっきりした

方向性を決めていたわけではなく、その時感じていたのは、ただ、渡り鳥にかかわっていたいと一心でした。実際に、本格的に函館山で渡り鳥の調査を始めたのは1981年です。当時24歳でした。この時始めたのは、「バードバンディング＝鳥類標識調査」(以下バンディング)です。バンディングは、野鳥を待ちかまえて捕獲し、種類ごとに太さの異なる、個体識別用に「KANKYOSHO (当時はKANKYOCHO)」と〈全国共通の通し番号〉の付いた金属の足環を装着し、再び野に放つ方法(これを「放鳥」と呼びます)です。この調査には、主にかすみ網を使い(環境省の〈許可証〉が必要)、基本は早朝から昼頃まで続けますが、それぞれの野鳥の習性を利用し、夜間でも行います。

捕獲された野鳥は、足環の装着の他、必要に応じて、性別、年齢、外部計測値などを、その鳥の健康状態を考えながら調べ、安全に速やかに放鳥されます。記録されたデータは、回収(放鳥日翌日以降に再捕獲されること)や観察により解明する渡りのコースはもとより、「種」によっては、野外での寿命、繁殖開始年齢などの解明に繋がります。

この試みは、道南では初めてだったため、何もかもが手探りな状態でした。

調査場所は千畳敷に隣接しています。函館山を歩かれる方は、おわかりでしょうが、8合目にある駐車場、「つつ

じ山駐車場」から「ツツジ山ゲート」を抜け、尾根筋を通過して千畳敷にある展望台まで伸びる道、つまり「北海道道675号立待岬函館停車場線」(当初は「函館停車場・立待岬線」)から函館山の周遊道として、下山道が計画され、下山道に繋がるはずであった廃道(?)です。過去には地蔵山にいたる鞍掛口付近でも実施していましたが、現在は千畳敷だけで実施しています。

調査を始めた1981年は、新放鳥数が32種615羽となり、最多放鳥数はルリビタキが110羽でした。ルリビタキは函館山を含む道南では繁殖も越冬もせず、ただ通過だけの渡り鳥でした。これは、予想外と言うより、考えてもいませんでした。事前の情報でも、ルリビタキが多いという情報が無かったからです。このときの調査は、直ぐに結果に結びつきました。1981年10月27日に放鳥した個体が、翌年の1982年2月6日に宮崎県南国町で国内初回収され



ルリビタキ♂A (2020. 11. 13撮影)

ました。渡りのコースさえ謎だらけの鳥でしたから、意外に長距離を渡ることが明らかになりました。ちなみに、この年は他に②シジュウカラ96羽、③アオジ90羽、④カシラダカ83羽、⑤ウグイス41羽でした。

この結果は、私の調査に対する不安を取り除き、函館山が渡り鳥の宝庫であるという予想が確信に変わった、と同時に、ルリビタキにとって、全国トップクラスの渡りの中継地であることが明らかになった瞬間です。これは、今後の調査を継続する原動力になりました。その後の函館山で放鳥されたルリビタキは、山形県飛鳥、愛知県豊田市、新潟県関屋海岸などで回収されました。

調査を始めてから今年で40年です。そのうち、調査したのは33年、正確には34年目に入りました。全体を通して見ると、89種21743羽で、①ルリビタキ7652羽、②ウ

グイス2389羽、③アオジ1716羽、④シジュウカラ1588羽、⑤メジロ1276羽となりました。

調査した33年、いずれもルリビタキが最多となり、ルリビタキの出現（春は除く）は、10月10日～11月20日が多く、最も濃密なのが10月25日～11月10日です。この時期「函館山がルリビタキであふれかえる」と言っても過言ではありません。

60年を超える年を経て、その半分の年で、ルリビタキを通じて、函館山の自然を見てきたこととなります。今思うと、よくぞここまで続いてこれたのかと思っています。

私は、ルリビタキを含む渡り鳥を追いかけるバンディングを、私のライフワークとして、健康が続き、さらには諸事情が許す限り、これからも続けたいと考えています。



さとう みちお 昭和32年函館市生まれ。(公財)山階鳥類研究所鳥類標識調査者。



## 臥牛山

吉田 則 幸

学生時代の数年間を除いて、函館生まれの函館育ち、新型コロナウイルスのワクチンが優先接種される年齢になった我が身を振り返ってみると、函館山はいつも視界の中にあり、その存在をあえて意識することもなく、風景の一部と化して、これまで過ごしてきた。

函館山は別名、臥牛山ともいうが、我が母校、函館市立駒場小学校の校歌1番の歌詞に「～あおぐ臥牛の～」、同じく深堀中学校の校歌1番の歌詞には、「霞む臥牛を～」とあり、さて次も、と期待して、北海道函館東高等学校校歌の歌詞を見てみた。残念、「函館山」も「臥牛(山)」も全く出てこなかったが、2007年に旧北高と旧東高が統合された、市立函館高等学校の校歌を見てみると、1番の歌詞に「臥牛の山は～」とあった。また、聞くところによると、他校でも、歌詞中にどちらかが出てくるところが多いようだ。このように、函館市民には幼いころから「函館山(臥牛山)」は身近で、在って当たり前存在なのである。

前述のとおり、函館山は別名、臥牛山ともいうことは函館市民誰もが知る処ではあるが、その由来は、牛が寝そべっ

ているように見えるから、というものであった。幼いころから、何の疑いもなくそう信じていたし、確かにそう見えていたような気がする。

しかし、その後、陸上のいろいろな場所、高校の修学旅行から帰る連絡船の船上、空路帰函したとき上空から等々、いろいろな角度から函館山を見る機会があったが、ある程度の年齢以降、私にはどうしても牛が寝そべっているようには見えなかった。長い間、そんな己の想像力の欠如を嘆いていた。それ自体は残念なことだが、その経験により、函館山は見る方角や角度によって様々な姿を見せてくれるということは分かった。

なお、「函館散策案内(須藤多加志：著)昭和47年発行」には『ペリー一行はサンフランシスコのテレグラフヒル(電信丘)を連想して、函館山をもテレグラフヒルと呼んだようだ。また、他には、海上に浮かぶ亀の背のように見え、亀嶺(きれい)とも呼ばれた。アイヌ語ではイチンケと呼び、これも亀のことである。さらに、寛政年間(注：1791年)来遊の、「えぞのてぶり」で知られる菅江真澄は、〈ワニが浮き出たよう〉と観察した』等の記述があり、従前より、人それぞれ、様々な見方、感じ方があったようだ。

また、函館市誌（函館日日新聞社 昭和10年発行）の臥牛山の項に「且臥牛山の名は天保年間（注：1831－1845）函館人の詩に見えている」、「即ち雅称の起源は詳らかでないが天保以前より呼ばれて居たのは事実である」との記述も見える。

ところがある時、何気なく手にした一冊の本、函館山のバイブルと言ってもいい「自然ガイド函館山（木村マサ子著 2011年発行）」の中に「牛が寝そべっているように見えることから臥牛山とも呼ばれていますが、実際には1898（明治31）年から要塞工事が始まるまでの姿のことで、その後の要塞工事で削られ、臥牛山と名づけられた当時の姿は残っていません」との記述を見て、我が意を得たりとばかりに、心の中で「そうだったのか!!」と叫び、一度は納得しかけた。しかし、やはり何かしっくりこないままだった。

そんな中、先日、立待岬に立ち寄ったところ、説明板に、立待岬の由来はアイヌ語の「ヨコウシ」だとの記述を見て、何か感じるものがあり、図書館で少し調べてみた。

「立待岬」の由来について、ともにアイヌ語の①ピウシ（ス）説 ②ヨコウシ説（現地説明板）がある。

「北海道の地名」（山田秀三：著 平成12年発行）では、『永田地名解（注：正式には「北海道庁属 永田方正著 北海道蝦夷語地名解 明治24年刊行」）』は「ピウシ。pi-ushi。立待（たちまち）。和人立待と云う。岩磯の上に立て魚の来るを待ち漁槍を以て魚を突て捕る処を云う」と書いた。ピウシにそんな意味があるだろうか。これだけの形ならpi-ush-i（石が・ある・処）としか読めない。諸地に「魚を待っていて突いて捕る岩」のような地名が残っている。ここも、そんな意味の「岩がある処」だったので、永田氏は訳ではなく説明を書いたのではなかろうか。』として、ピウシ説には否定的。

さらに、「アイヌ語地名解」（更科源蔵：著 昭和41年発行）によると、『実はアイヌの人たちがヤスを持って、魚の来るのを立って待っていたところで、ヨコ・ウシといたのを訳して立待としたが、ここをアイヌ達はピ・ウシといたところであるともいう。ピ・ウシでは石のあるところという意味で、立待にはならない。函館山を臥牛山というのは、アイヌ語のヨコ・ウシに横牛の文字を当て、更に臥牛としたものと思われる。』としている。



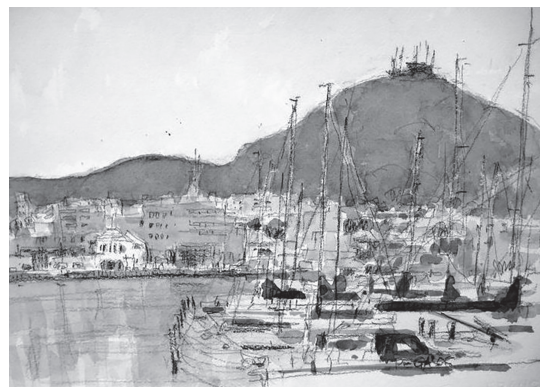
宇宙から見た函館山（Google earth）

その瞬間、ハタと気づいた。牛が寝そべっているように見えたので「臥牛山」と呼ばれるようになったのではなく、「臥牛（山）」の名称が先にあり、なぜ、臥牛（山）なのか？それは、牛が寝そべっているように見えるから、と後から意味づけされるようになったのではないか。そもそも、臥牛（ヨコ・ウシ）は函館山の南東部のほんの一部（立待岬）をさす言葉だったのであり、函館山全体をさすのではなかったのだから。それなら、牛が寝そべっているように見えないのも無理はないのではないか。

考えすぎかな？単なる素人の思いつきです。お忘れください。



よしだ のりゆき 昭和29年函館市生まれ。昭和53年地方公務員として勤務、平成20年勤続30年を機に退職し、社会保険労務士開業、同22年特定社会保険労務士付記。現在に至る。



緑の島から函館山方面を（大阪府在住 増野 暁氏 作品）





## 函館山「津軽要塞」探訪記

若山 直

父若山徳次郎は93歳で亡くなる1か月前まで、歩行器で老人ホームの庭園を歩きまわるのが日課だった。その健脚は毎日の函館山登山にあった。

かつて父は伊東徹秀氏との対談でこう話した。

「ゴルフより一人で函館山に登っている方がいいですよ、山頂までは片道4キロ、往復しても2時間少々だから、夏は毎朝、冬は休日ごとに大概登ります。函館山は渡り鳥の中継地で、糞を落としていくでしょ、その糞にはいろんな植物の種が混じっている。春先には白いスカートをはいた踊り子草や、黄色い福寿草が咲き、夏はアジサイが、秋はツタ漆が真っ赤な葉をつける。僕は昭和16年に、函館山の重砲連隊に招集されたんですが、あの頃の函館山は植物の楽園でしたね」(五島軒ニュース1号・対談・昭和55年4月)

父の言う重砲連隊は、ロシア艦隊の襲来を想定して明治時代に作られた。日露戦争勃発当時、欧州で最大規模を誇る「バルチック艦隊」は、35隻の戦艦を率いてウラジオストックを目ざして日本に向かった。ウラジオ入港を許せば、日本海の制海権は失われ、日本列島は無防備化してしまう。だが「対馬海峡」「津軽海峡」のどちらかを通過しなければウラジオには入港できない。ロシアがどの海峡を選ぶか？これは日本の運命を左右する大問題であった。日本軍は函館山に巨大なカノン砲6門を据え付け、「津軽永久要塞」を構築した。津軽海峡を封じられたロシア艦隊は、やむなく対馬海峡に突入し、迎え撃った日本連合艦隊によって全滅した。津軽要塞のおかげで日本は敗戦を免れたのである。

時代が推移し、第2次世界大戦が始まったころ、陸上要塞は時代遅れになっていた。

陸から飛行機を落とすには、高射砲で「弹幕」を作る必要があるが、津軽要塞にそんな装備はなかった。アメリカ軍の空襲で青函連絡船は全滅し、函館ドックや市街地も爆撃されて大きな被害を受けた。だが重砲連隊から死者は出なかった。海峡に敵艦隊は出現せず、重砲兵は空母から飛んできたグラマンが市街地を飛ぶのを、山頂から見ているしかなかった。

昭和20年に戦争が終わり、アメリカ占領軍が進駐して津軽要塞は解体された。同時期、五島軒は「アメリカ軍南北海道総司令部」として接収され、昭和25年に解除されるまで、苦しい5年間を過ごした。要塞時代、一般人の出入が禁止されていたため、函館山には豊かな自然が残っていた。軍用道路(旧登山道)とは別に、観光用の自動車道路が整備され、山頂にはロープウエーが設置され、テレビの普及に伴い、テレビアンテナが林立した。

昭和39年(1964)の東京オリンピックが開催される前から、山頂からの夜景は世界三大夜景の一つとなっていたが、本格的な観光都市になった契機は、昭和63年(1988)の「青函博覧会」である。博覧会に合わせて、官民の投資が増え、金森倉庫がビアホールになるなど、函館は観光都市化に舵を切った。こうして函館山は市民憩いの山から転じて、観光のメッカとなったが、心配もある。

30年前と異なるのは、薬師山の石垣に住むリスの姿が消えたこと。5年ほど前に、春に生まれた子ぎつね数匹が車に轢かれて死んで以降、キツネが姿を見せないこと。朝に山の上空を跳びながら、しきりにピーヒョローと鳴いていたトンビの声が絶えたこと。6月にはエゾ夏ゼミが鳴いたが、7月20日現在、ミンミンゼミやアブラゼミはまだ鳴いていない。キツツキが木をつつく音も激減している。カラスは激増した。脱皮したばかりで動きの鈍い蛇をつついて持ち去ったカラスを目の前で見た。麓の住民が野良猫に餌を与えるため、野生化した猫が増え、山頂まで狩りに



二十間坂から函館山山頂を臨む

登ってきている。猫の縄張り争いは厳しく、小型の犬なら逃げずに逆に襲ってくる。注意が必要だ。以前は道路を横切る体長6cmほどのヤチネズミを見かけたが、これも姿を消した。ネズミが消えれば、青大将もシマヘビ、マムシ、キツネも餌不足で生息できなくなる。要塞時代に残されていた山の自然は、明らかに変わりつつある。観光バスとタクシー、登山者は激増したが、観光による自然破壊も同時進行で進んでいる。

8年前、戦後2度目の東京オリンピック開催が決定すると、10棟を超えるホテルが工事を始め、宿泊数が倍増する兆しを見せていたのは周知のとおりである。

私は五島軒に徒歩通勤しているが、夜8時過ぎにロープウエーの搭乗口から聞こえるのは圧倒的に中国語が多かった。2月の春節ともなると上海の雑踏にいる感じがした。「あんたは武漢？俺は上海から来た。明日はサッポロのユキマツリだ」などと盛り上がっていた。この風景が「新型コロナウイルス」で一変した。狭い「ゴンドラ」に搭乗するロープウエー、狭い「エレベーター」でタワーに登る五稜郭タワーは閉鎖、オープン予定のホテルは社員募集を停止し、

「非常事態宣言」が発令されると、倒産や資本売却が増えた。五島軒も他の飲食店やホテル同様、苦境の中にある。

函館の町は、北洋漁業、青函連絡船、函館ドック（造船）、という経済3本柱が衰退した後、第4の柱だった観光業にシフトして生き残ってきたが、これをコロナが直撃した。

登山も人生も、登った後は下るのが道理である。経済も同じだ。日本経済は高度経済成長という「登り坂」の後、バブル崩壊という「下り坂」を転げ、ようやく一息ついて東京五輪を迎えた。コロナ禍こそ予期せざる坂、「まさか＝真坂」という坂だと思う。しかし「明けない夜はない」。幕末のコレラ、戦前のスペイン風邪では人口の1割が死傷しているが3年で平常に戻った。函館文化会も未来のために種まきをする時期だと思う。

コロナが収まり、楽しい講演会や神山茂賞の祝賀会でお会いするまで、皆様、どうかお元気でお暮らし下さい。



**わかやま なお** 昭和20年函館市生まれ。昭和43年法政大学卒業後、(株)五島軒に入社、研修のため渡仏しホテル学校に入学、卒業後レストラン、ホテルに勤務。帰国後、五島軒企画部長、五島軒取締役社長を経て、現在、同社会長。



## 函館山 二話

近江幸雄

函館山を別名「臥牛山」と称するのは市民なら誰でもご存知のこと。

函館戦争に於いて榎本艦隊に乗船した老中格の藩士を紹介すると、備中松山藩 板倉勝静、伊勢桑名 松平定敬、唐津 小笠原畏行の三公である。

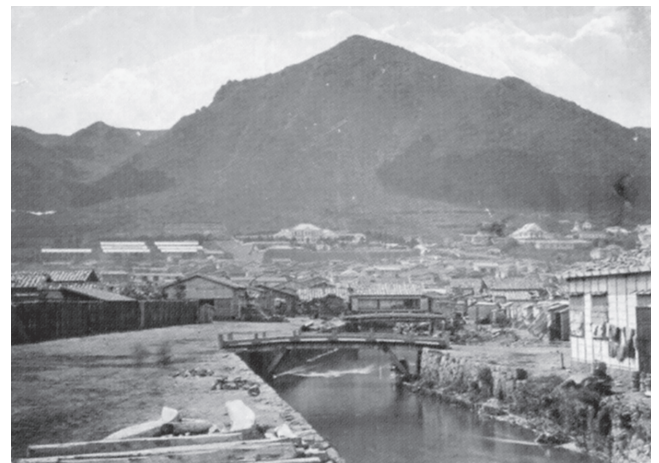
藩士は土方歳三肝いりの箱館新選組に加入した。土方と藩士たちの利害が一致したことによる。ここでは、蝦夷地上陸から戦闘は省略することとした。

明治2年10月26日、五稜郭に無血入城した後、松山藩士は30日、本陣である称名寺に入った。背後の山、臥牛山を仰ぎ一同驚きと感銘を受けたのである。故郷松山の城地と同じ名であったからである。市中取締りの任務を全うしながらこの地が死所とかんじたものであろう。

翌3年5月、政府軍来攻。弁天台場に入った藩士の中で

乙部剛之進が戦死。土方と同じ11日であった。

以上は、故岡田弘子さんの提供



本願寺函館別院（旧願乗寺）付近から見た函館山。  
撮影は、明治初期。函館市中央図書館蔵

毎年5月11日は護国神社の大祭である。国のために、  
家族のために殉難者の霊を慰める断腸の日である。宮司  
真崎宗次先生が選んだ一首

わが立てる臥牛の山は低くして南海は見えぬ吾子はか  
へらず

松陰の作だという

親思う心に勝る親心今日の訪れ何と聞くらむ

時は代り、世は移っていても親子の情念は永遠である。



おうみ ゆきお 昭和11年函館市生まれ。高等学校卒業  
後函館市水道局に奉職、その後市立函館図書館に勤務。定  
年退職後、郷土史研究活動を続け、「函館人物誌」「函館郷  
土秘話」など著書、平成21年神山茂賞受賞、現在北海道  
史研究協議会渡島地区幹事。

### 函館の歴史と文化を語り継ぐ・次回のテーマは「西部地区の街並み」

函館文化会が取り組む「郷土の歴史と文化の伝承」に因み、会報で毎号函館の歴史・文化をテーマとして取り上げ、  
会員皆さんからテーマに沿った思いやエピソードを綴っていただき、後世に残していきたいと考えております。

次回の特集「函館の歴史と文化を語り継ぐ」のテーマは、函館山と  
函館港に囲まれ、函館のまちの誕生と発展を語るときに避けてとおる  
ことができない、北海道遺産にも選定されている「西部地区の街並み」  
としました。異国情緒を感じさせる「西部地区の街並み」にまつわる  
会員皆さんの思いやエピソードを次の応募規定によりお寄せください。  
お待ちしております。



函館港内から見る西部地区の街並み

#### 【応募規定】

- 1 「西部地区の街並み」にまつわる思いやエピソード
- 2 文章は原稿用紙6枚程度(2,400字)で、関係する写真1枚の  
掲載も可能。  
なお、原稿には趣旨を損ねない程度に手を加えることがあります。
- 3 原稿は、封書・FAX・メール等で令和4年7月29日(金)までに函館文化会へ送付ください。
- 4 出来れば、これまでに寄稿されていない会員の応募をお願いします。
- 5 原稿の送付先、問い合わせは 函館文化会事務局 TEL・FAX 0138-57-1175

### 函館文化会「ホームページ」、「ブログ」の開設

インターネットの普及により、企業・団体等がホームページを持っている  
ことが当たり前になっており、「函館文化会」に対する信頼度を向上していく  
には、会員を含めたユーザーの求める情報を常に発信していくことが必要です。

こうした中で「函館文化会」の知名度の向上と活動の推進のため、函館文  
化会の歴史や概要、事業の内容及び案内、報告などの情報を、インターネッ  
トを通じて全国・世界に発信することを目的に函館文化会「ホームページ」、  
「ブログ」を開設しております。一度ご覧いただき、ご感想・ご要望など事務  
局にお寄せください。

アドレスは、次のとおりです。

- ・ ホームページ <http://hakodate-bunkakai.com/>
- ・ ブ ロ グ <http://blog.livedoor.jp/bunkakai/>



## 特集

## 函館文化会 創立140年を迎えました

函館文化会は、国の「公益法人制度改革三法」の施行に伴い、平成25年（2013）4月1日北海道知事の認可を受け「一般社団法人 函館文化会」として再発足して早8年を経過したが、その源は遙か明治12年（1881）に有志が集まった「教育練習会」にまで遡り、さらに明治14年（1881）には組織としての「函館教育協会」が結成されました。

その「函館教育協会」が結成されて、今年で140年を迎えるにあたり、法人化された昭和33年の函館文化会創立までの歴史を辿り、改めて、会の設立経過や当時の思いなどを顧みながら、函館文化会の更なる発展に繋げていければと願い、これまでの足跡を振り返ってみました。

## － 函館文化会の沿革 －

## 函館教育協会

- 〔明治14年（1881）11月 3日
- 〔明治37年（1904） 1月

## 函館教育会

- 〔明治37年（1881） 1月
- 〔明治40年（1907） 3月

## 社団法人 函館教育会

- 〔明治40年（1907） 4月
- 〔昭和20年（1945） 5月（解散）

## 大日本教育会北海道支部函館分会

- 〔昭和20年（1945） 7月
- 〔昭和23年（1948） 4月

※全国組織の大日本教育会は、昭和21年7月に「日本教育会」に改められ昭和23年4月に解散

## 大日本教育会北海道支部函館分会維持財団

- 〔昭和20年（1945） 7月
- 〔昭和33年（1958） 2月（解散許可）

## 函館郷土文化会

- 〔昭和26年（1951）12月
- 〔昭和33年（1958） 2月（解散）

## 社団法人 函館文化会

- 〔昭和33年（1958） 2月24日（設立許可）
- 〔平成25年（2013） 4月 1日（新法人移行）

※函館郷土文化会と大日本教育会北海道支部函館分会維持財団が合同

## 一般社団法人 函館文化会

- 平成25年（2013） 4月 1日（移行認可）
- ※「公益法人制度改革三法」の施行により、一般社団法人に移行

## － 設立等の経過 －

明治12年（1879）頃から、開拓使函館支庁学務課員、小学教科伝習所職員、函館区学事担当者、公私立学校教員等が集まり「教員練習会」を結成し、毎月会合を開き、教育に関する演説討論（例会）を行い、広く教育の研究に貢献した。（函館文化会の母胎）

明治14年（1881）9月、同志が集まり「函館教育協会」設立の協議を進め、その折りに北海道教育会議が函館で開催され、札幌、根室二支庁の官吏、教員、学務委員等数十人が集まっており、これらの人々に「函館教育協会」の規程を諮り、賛成を得て役員を選出するなどして官署に届け出、11月3日（天長節当日）に発会式を揚げ、「函館教育協会」が発足した。（函館文化会の創立）

「函館教育協会」は名称を「函館教育会」「大日本教育会北海道支部函館分会」と変わっていったが、一方で「大日本教育会北海道支部函館分会維持財団」が設立され、さらに、昭和26年（1951）設立された「函館郷土文化会」とその目的及び会を構成する人たちも重なることから、「大日本教育会北海道支部函館分会維持財団」と「函館郷土文化会」がともに発展的に解散し「社団法人 函館文化会」を設立した。（昭和33年2月24日 北海道教育委員会設立許可）

平成20年（2008）、国の公益法人制度改革三法」の施行に伴い、函館文化会は平成25年（2013）4月1日北海道知事からの移行認可を受け「一般社団法人函館文化会」となり発足、現在にいたっている。

## 一 函館文化会の活動経過 一

「教員練習会」に始まり、「函館教育協会」「函館教育会」「大日本教育会北海道支部函館分会」と名称の変遷を辿り活動を続け、初期の頃は教員の集まりで、教育の振興を図る自主的な研究団体であったが、その後、学校教育に止まらず、音楽会や講演会、水泳会の開催、林間学校の開設、児童雑誌の刊行、各種表彰など一般市民を対象とした事業を行ってきた。

昭和26年(1951)に設立された函館郷土文化会は、図書の出版に積極的に取り組み、昭和27年(1952)に市立函館図書館所蔵の『亜墨利加一条写』の複製本、翌29年(1954)には郷土史研究家がNHK函館放送局で連続放送した話をまとめた『郷土昔話』、また、昭和32年(1957)、函館郷土文化会会長斎藤與一郎がNHK函館放送局で1年間連続放送した『非魚放談』を会員が中心になって刊行委員会を構成して発刊。これらの出版物は、いずれも幕末・明治時代から続く函館の人びとの文化的・先進的な、いわゆる「函館人氣質」の一端をうかがうことができる意義のある事業であった。

その後、昭和33(1958)年2月24日、北海道教育委員会の設立認可を得て「社団法人函館文化会」が誕生、さらに事業の深化拡充を図り活動を続け、函館における文化の発展に向けての援助・協力を積極的に行い、展覧会や書道展、音楽会、講演会などに対する助成、石川啄木銅像建設、松前城再建事業、高橋掬太郎詩碑建立、「啄木文庫資料目録」出版費など、文化事業の資金の一部を寄附することなど多岐にわたっている。

また、弁天台場、五稜郭、碧血碑、権現台場、函館護国神社、宇須岸河野館跡の各所に標注や説明板を設置し、後の観光案内板の先駆けとなる事業も展開した。現在も、函

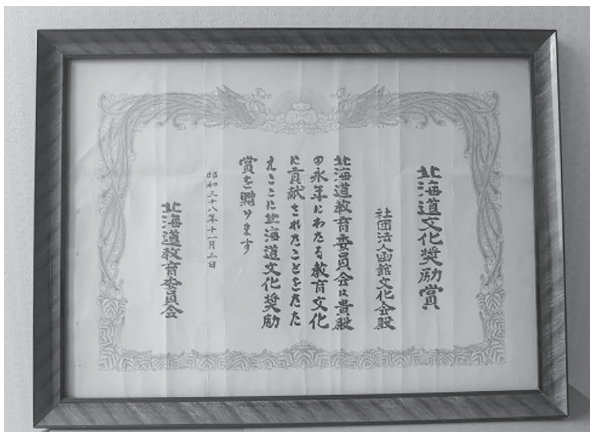
館どつく株式会社函館造船所の通用門脇の「弁天台場跡」などの標柱5本が風雪に耐えた姿で残されている。

これらの活動が、長年にわたっての教育・文化に対する貢献と認められ、昭和38年(1963)に「北海道文化奨励賞」を受賞、また、函館文化会創立100周年に当たる昭和56年(1981)には、人文科学の分野で「函館市文化賞」受賞の荣誉に浴した。

近年における活動は、郷土史研究奨励事業として、平成元年(1989)に郷土史研究家 神山茂氏の業績を称え、後進の研究者を励ます目的を持って「神山茂賞」を制定、毎年神山茂氏の命日に当たる11月7日、函館市及び近郊の地域にまつわる郷土史研究の個人及び団体に対する表彰を行うほか、郷土の歴史・文化を学び、伝承するための「講演会」や「市民公開講座」、郷土文化団体への助成・支援事業などを行っている。

平成20年(2008)、国の「公益法人制度改革三法」の施行に伴い、函館文化会は平成25年(2013)4月1日北海道知事から認可を受け「一般社団法人 函館文化会」となり、また、函館文化会事務所は、長年、社会福祉法人函館厚生院の厚意により函館厚生院看護専門学校の一部をお借りしていたが、同校舎の移転改築に伴い退去することとなり、平成28年(2016)3月1日学校法人野又学園の協力を得て函館大学内に移転することができた。これらを機に、函館文化会の設立経過や定款の目的に掲げる「郷土の文化を顕揚し、その振興発展を図る」との趣旨に鑑み、将来に向けてさらなる充実、深化を図りながら、郷土の文化のさらなる振興発展を目指し歩みを続けていく。

※参考：創立130周年記念社団法人函館文化会沿革史、  
函館文化会会報創刊号～第82号



北海道文化奨励賞 昭和38年受賞



函館市文化賞 昭和56年受賞

## 特別寄稿

## 追悼 函館文化会前会長 安島 進氏を偲んで

函館文化会前会長の安島 進氏が令和3年3月3日、92歳でご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

安島 進氏は、北海道第二師範学校（現北海道教育大学）本科卒業後、函館市立青柳小学校教諭として奉職後、教諭、指導主事として活躍、昭和58年函館市立鍛神小学校長を退職後、平成5年10月まで函館市教員委員会教育長として函館の教育行政発展に貢献、平成6年には函館市功労者表彰を受賞されております。

函館文化会には、平成6年定時総会で理事に選任、平成19年には関 輝男氏の後を受けて会長に就任され、平成28年に退任されるまで函館文化会の歴史と伝統を受け継ぎ、先人の弛まぬ郷土愛を範としながら活動を続け、函館文化会の発展に尽力され、会長退任後も顧問としてお力添えをいただきました。

安島 進氏を偲んで繪面和子氏、櫻井健治氏、上田昌昭氏から追悼のことばをご寄稿いただきましたのでご紹介します。



## 安島 進先生の教え

繪面和子

函館の教育界に多大なご尽力くださいました安島進先生が、令和3年3月3日92歳でご逝去されました。すぐには信じるできませんでした。いつも穏やかで丁寧に、時には厳しくご指導くださる先生のお姿は、教師としてのお手本でした。

昭和51年、私が北海道教育大学附属養護学校開設に関わっていた時、先生は北海道教育大学附属函館小学校副校長でおられました。「子どもの秘めた可能性をいかに引き出せるか、常に自分のアンテナをはりめぐらせること。そのためには教師の豊かな感性が必要であること。そして個々の特性を生かした指導ができるよう研鑽を怠らないように」と。今でも忘れられぬお言葉をいただきました。

昭和58年、函館市教育長になられた後から、お教えいただきましたのは、「地域に根差した教育を心がけること。人と人との繋がりを大切にすること。子どもたちが楽しく学べる環境づくりをするために、今、何が必要なのかを一人一人との対話を重ねる中で見出すこと」このことは、後の学校経営でも重要であるとお教え頂きました。

平成6年から平成16年の10年間、先生は北海道教育大学函館校同窓会、夕陽会会長としてご尽力くださいました。時恰も大学改革の途上にあり、大学の再編により、教員養成課程存続が危ぶまれた時でもありました。会長として、また、会長退任後もこの課程は何としても存続させたいと

大学に足を運び、同窓会とも議論を重ねた末、教員養成課程は縮小されたものの、存続することに安堵しました。会長退任ご挨拶として、会報の表題は、「夕陽無限好」でした。夕陽会の指針「創造し行動する夕陽会」を先生は自ら実践されて、全道はもとより本州へも足を運び、各支部の特色ある運営や地域に生きる会員の活躍を喜び、更に変貌の激しい時代に生きる会員の行動をいつも楽しみにしておられました。これからもきっと見守っていて下さると信じています。

平成23年4月、私が函館文化会の理事に推薦された折に、先生から「函館教育史」(平成23年1月発行・函館文化会創立130年記念)をお渡し頂きました。加えて先生は「函館文化会が行う郷土文化振興事業として、道南圏の歴史文



90周年夕陽会記念式典に参加された安島先生（中央）

化の究明・周知を図ると共に、郷土史研究者への表彰を行うことである」、そして、少し間をおいて「この会で若者の活躍をどう引き出すかが、今後の重要な課題なんだよ」と、いつもの穏やかなお声でお話下さいました。

教育大学のある教授が言うておられました。「大学改革では安島先生に並々ならぬお世話になりました。地域に根差した教育の在り方について語られるあのような先生はもう現れないでしょうね」と。

最後になりますが、長い間にわたりまして頂きました。ご指導ご温情に心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。 合 掌



えづら かずこ 昭和16年歌志内市生まれ。北海道学芸大学函館分校卒業後、亀田町亀田小学校教諭に奉職、その後函館市内の教諭、教頭、校長を務め、平成14年函館市立大森小学校長で退職。北海道教育大学夕陽会副会長、函館文化会理事。



## 安島教育長と文学館の建設

櫻井健治

今年3月3日、安島進元函館市教育長が肺炎のためご逝去された。享年92歳、心から哀悼の誠

を捧げます。

安島教育長は昭和24年3月、市立青柳小学校に勤務されたのをスタートに、平成5年10月に教育長を退任されるまで実に44年5か月に亘って、学校教育に対する確固たる信念を持って貢献されてきましたが、その業績は計り知れないものがあるといつてよいでしょう。

平成2年5月11日、私はそれまで在職していた市の企画部から教育委員会への出向辞令を受け、さらに同日、教育長安島進名で社会教育部社会教育課長（現在は生涯学習部生涯学習文化課長）の命を受けることになりました。私にとって、初めての教育分野での勤務でありました。当時の社会教育課の業務領域は、広範な分野に亘っておりましたが、ここで逐一紹介することは省略し、安島教育長との関わりで、函館市文学館の建設について記しておきたいと思ひます。

函館市では、末広町にあった日本銀行函館支店の旧社屋を購入し、建物の内部改造を行って、平成元年11月に「函館市北方民族資料館・石川啄木資料館」を開館しました。この資料館の開館と時を同じくして、(株)ジャックスから末広町にあった旧社屋の建物と土地が函館市に寄贈されました。市ではこの建物の活用を検討した結果、単独の文学館として、国の特例制度として設けられた地域総合整備事業債を活用し、3年間で建設整備することが決まり、何故か私が社会教育課へ異動することになったのです。（ここで

敢えて付記しておきますが、私の業務は文学館建設が専任ではなく、社会教育全般です。）函館の文学といえば、石川啄木に代表されてしまいがちですが、30万都市（文学館建設当時）という人口規模にあつて、極めて多くの文学者を輩出し、然もわが国文壇で大活躍したことは、他都市と比較しても稀なケースといつても決して過言ではありません。しかし地元に住む私達自身が、その存在や知名度、文壇での活躍などを十分に周知していなかったのも、その頃の函館の文学に対する状況であつたといつてよいでしょう。

前述した様に、3年という限られた時間での建設整備であり、私は社会教育課の限られたスタッフと共に、啄木はもとより一人でも多くの作家を取り上げ、その業績を永く顕彰していくため、作品や遺品等をはじめとする資料、情報の収集へと動き出しました。

幸いにして、函館出身あるいは函館ゆかりの作家のご遺族や関係者の皆さんが、函館はもとより東京や神奈川等に



函館文学館

多くお住まいになっていたこともあって、様々な形で協力を受けるべく、幾度となく足を運ぶことで信頼度も増し、理想とすべく文学館のあるべき姿を確かなものとして、作業を進めることが出来ました。

今となっては、一寸時期を忘れてしまいましたが、建設、資料収集、展示展開等と順調に進む平成4年の秋口か5年の2月頃のことと記憶しております。安島教育長に上京していただき、お礼のご挨拶をお願いしたい関係者がおり、教育長の多忙な日程を調整してもらい、一泊二日のスケジュールで東京へと向かいました。

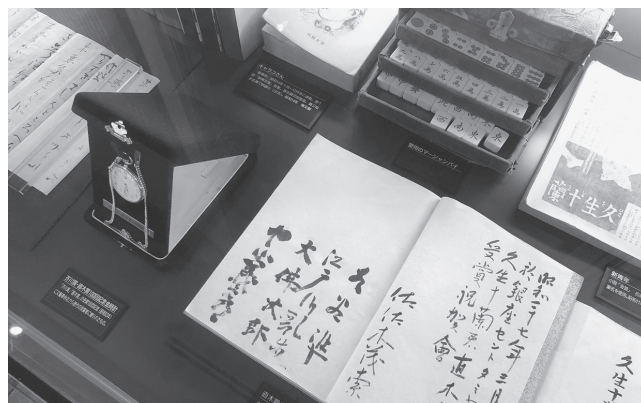
最初に訪問したのは、世田谷区にお住いの石川啄木の義弟にあたる宮崎郁雨のご子息捷郎氏でありました。氏のお宅の近くには啄木の孫の玲児氏も住んでおられたことから、すぐに来られて、教育長から文学館の施設内容、啄木と郁雨の展示概要、他の作家の展示等について詳しく説明していただき、お二人とも何度も頷いて理解を示され、さらに「教育長がわざわざ説明に来られたから」ということで、料理とお酒が用意され、大歓待を受けることになりました。

余談になりますが、宿泊先は翌日の行動を考え、神奈川県藤沢駅前のホテルを予約しており、また学生時代に私が住んでいた小田急線（江の島線）の善行駅前で本屋を営んでいたK氏が、教育長と二人で来られるということで一席持って下さることで約束していたのであります。しかし宮崎氏宅での歓待もあって一時間ほど遅れて到着し、お叱りを受けましたが、啄木の孫と会ってきた話をする、「それはよかった」ということで、教育長と私はすぐに車に乗せられ、江の島の小料理屋ですっかりごちそうになり、ここでも杯を重ねることになりました。

K氏からは、「明日はハイヤーを一台提供するので一日自由に使って」という話があり私共は恐縮しつつも甘えることにしました。翌2日目の朝9時半、黒塗りのハイヤーがホテルに横付けされ、訪問先の住所やアポイントの時間、羽田への到着時間等を打合せ、さっそく行動を開始しました。

最初に訪問したのは、藤沢市大鋸にお住いの長谷川忠男氏であります。氏の父君は長谷川海太郎であります。谷譲次、牧逸馬、林不忘の三つのペンネームを使い、文壇随一の花形作家として大活躍し、鎌倉に「鎌倉御殿」を構え、正しく文壇のスーパースター的存在でありました。

次に訪問したのは、鎌倉市材木町にお住いの長谷川済子さ



函館文学館に展示されている久生十蘭の資料

んであります。済子さんは長谷川海太郎の弟長谷川四郎の奥様であります。四郎も優れた文才の持ち主で、軽やかに国際的な感覚に溢れた天衣無縫の作家として、小説にとどまらず、詩、絵画、童話、戯曲、翻訳と幅広い領域で活躍しました。

そして訪問の最後は、やはり鎌倉市材木町にお住いの阿部幸子さんでありました。阿部さんは、阿部正雄ことペンネーム久生十蘭の奥様であり、十蘭は孤高の作家と言われ、昭和36年に『鈴木主水』で第26回直木賞を受賞しています。

この日訪問したお三方からは、教育長とお礼のご挨拶にあがるに先立って、既に様々な原稿や文献、遺品等を数多く頂戴していたこともあり、教育長からは、文壇で大活躍をした作家の貴重な品々を展示することで、函館市文学館の展示内容は極めて充実され、国内の文学館にあっても中身の濃い貴重な存在になるに違いないこと、そのために多大なるご協力をいただき感謝に耐えないことを申し上げて、2日間の強行スケジュールを終えることができました。

こうして総事業費約7億円を投じた煉瓦及び鉄筋コンクリート造陸屋根三階建、総面積1,154㎡の函館市文学館は、平成5年3月31日めでたくオープンしたのであります。

安島教育長と共にした行動の一旦にすぎませんが、ここに記しました。安島教育長は、文学館の建設にとどまらず、社会教育全般に亘って、様々な形で自らが率先して行動することを惜しむことなく、その基盤をしっかりと築き上げるためにご尽力されました。教育長のご冥福をお祈りしつつ、思い出の拙い一文とさせていただきます。 合 掌



さくらい けんじ 昭和22年函館市生まれ。昭和45年函館市に勤務。企画部企画管理課長、教育委員会生涯学習部長、市民部長、商工観光部長などを歴任し、平成20年退職。函館商工会議所常務理事、函館山ロープウェイ(株)代表取締役専務を歴任、令和3年5月同社を退任。





## 函館文化会への思いを寄せて

上田 昌昭

函館文化会前会長の安島進さんが平成3年3月3日、92歳で逝去された。誠に悲しみの極みであり、衷心よりご冥福をお祈りいたします。

2月18日の夕方「局長!!検査で1週間ほどの予定で入院したから」と、相変わらずの元気な声を受話器から飛び出してきた。しかし、これが安島進さんからの最後の連絡だとは思ってもよらない出来事になってしまった。

安島進さんは、平成28年5月の函館文化会総会で会長を退任（顧問に就任）された後も、事務局に「皆さん元気か？膝の調子が芳しくなく顔を出せないが、こうして元気であるので何かあったら連絡して…」と週に2、3度電話を掛けてくれていた。会長の職を退いても函館文化会への思いは消えていないと思い、気配りに感謝しながら電話でのやりとりを楽しませてもらっていた。

国の「公益法人制度改革三法」が施行されたことを受け、昭和33年社団法人として認可を受けていた函館文化会は新公益法人（一般社団法人）への移行が求められ、電子申請による移行承認手続きが必要とのことで、当時の叶邦武常務理事から「パソコンが不得手なので、応援してくれないか」と声を掛けられ、週1、2度本町にある函館文化会の事務局に出向き、定款、諸規則の整理から始まり資産調査関係資料など、ひと通り移行申請書類を整え監督官庁の北海道へ電子申請を行うことが出来た。

北海道から認可承認を得た後、次年度以降の報告手続き手順を整理していると安島会長から「いつから来てくれる？」と声を掛けられ「えっ!!ひと通り整理しましたが…」と話したものでした。どうも、安島会長は叶常務から「時期を見て常勤での事務局長をお願いしている」と伝え聞いていたようだ。当時、私は再就職で民間コンサル会社に勤務していたこともあり、常勤の事務局長は考えてもいなかったのが、そんな経過もあって平成26年4月にコンサル会社を退職し、事務局長として勤務することとなった。

翌年1月、函館文化会に激震が走った…。昭和33年から函館文化会の事務局を置いていた函館厚生院から「函館

文化会の事務局のある看護専門学校の移転改築が予定されており、早急に退去して欲しい」と伝えられた。当初は正月早々悪い冗談だろうと高を括ってはみたが、安島会長、池見厚一副会長、叶常務理事とも、「いずれそんな時期は来るだろう」との認識は持っていたようだ。看護専門学校が改築した後、函館文化会も一緒に移転させて貰うことは出来ないか相談してみたが、出来る話でないことは承知していたものの、退去は早急に、遅くとも1年以内でとなると話は別だ。

何度も正副会長にエレベーターのない看護専門学校3階にある事務局に足を運んでもらい、函館文化会の現状を考えると、新たに貸事務所やアパートの一室を借りてということは財政的に不可能に近く、会員の企業や関係機関等の倉庫や会議室の一角を借用することを最優先に考えるより。との結論に至り、安島会長、池見副会長があちこちとあたってくれたが、なかなか良い返事を聞くことは叶わず、時間だけが過ぎていった。さすがに安島会長も「文化会をなくすることは出来ないが、どこかの団体と統合することも考えられないか？」との提案もあり、法人の指導機関である北海道法人課にも赴き相談したが、なかなか意に沿うような団体も見つからず途方に暮れたものだった。

そんなある日、安島会長から「野又さんに実情を話したが、相談に乗ってくれそうだと弾んだ声が電話口から飛び込んできた。学校法人野又学園の学園長 野又 肇氏と別な会合でお会いした際、実情を訴えお願いしたとのことで、野又 肇氏からは「学園の理事長も離れて権限はないが、函館大学に出来ないか検討してもらおう」とのことだったという。

折角の好意ではあるが、そんな簡単なことではないよなあと思いつつも、その後、函館大学の担当者が函館文化会の事務局の現状を見て、いくつかの課題にも積極的に対応してもらい、また、短期間の中で野又淳司理事長には学内協議を整え、平成28年3月1日に函館大学の研究室の一室を「函館文化会事務局」として事務局を置かせていただくこととなった。事務局の開所にあわせ、正副会長を囲んでささやかに開所式を開催したが、事務室を見渡しながら

安島会長の安堵した顔を今も忘れることは出来ない。

この移転には、野又学園の野又 肇学園長の配慮や野又淳司理事長をはじめ函館大学教職員皆さんの協力なくしては実現できなかったことはもちろんのことだが、何よりも不自由な体を押して走り回った安島会長の函館文化会への思いが伝わり、まさに函館文化会存亡の危機を救ってくれたものと思っている。

移転後、函館厚生院に長年事務所を置かせていただいたお礼に伺った際、函館厚生院理事長の高田竹人氏から「良かった。ただ追い出すだけで協力が出来ないことに心を痛めていた」との言葉を頂戴したことも添えておきたい。

事務所移転も決まり、これで一安心…。と、安島会長から、「折角、新しい事務所も決まったことだから、函館文化会も生まれ変わる時かもしれない」と、函館文化会の事務事業を見直すことを理事会に提案、2度にわたり各理事の意見を拝聴しながら安島会長から「“学園”という学びの環境を生かした新たな展開を!!」、また、池見副会長からは「こうして多くの方（会員）に参加して貰っているのだから、会員の親睦交流の場も!!」との強い要望もあって現在の事業体系を確立させることができた。

安島会長は、平成19年5月の総会で関 輝男会長の後を引き継ぎ函館文化会会長に就任後、法人改革に伴う一般



「函館文化会の歴史を語る座談会」で講演する安島会長（平成21年）

社団法人への移行、突然湧いた事務所の移転、伴う函館文化会事務・事業の見直しと次から次に起こる課題を解決していただいたことは、安島会長が常々口にしてきた「函館文化会が果たしてきた役割と先人の情熱、奉仕の行動を学ばねば」との思いを実践してくれたものと思っている。こうした安島会長の函館文化会への思いを、今後も引き継いで行かなければならない。

合 掌



う え だ ま さ あ き 昭和19年木古内町生まれ。法政大学文学部卒業、函館市に勤務し、平成16年議会事務局長を最後に定年退職。その後、民間水道コンサル会社に再就職し、平成26年4月函館文化会事務局長、令和2年5月函館文化会常務理事。

## ● 会員を募集しております ●

函館文化会では「郷土の文化を顕揚し、その振興発展を図ることを目的」に活動を続けておりますが、この趣旨に賛同いただける方を募集しております。

皆さんの近くに入会いただける方がおられましたら電話、FAX、メールなどで文化会事務局にお知らせいただけませんか。「入会申込書」をお届けいたします。

## ● 函館文化会の助成制度について ●

函館文化会では、郷土文化振興事業の一環として郷土文化団体が函館市内において開催する講演会、展示会及び芸能発表会などに対し予算の範囲内で助成を行っております。

事業の実施前に申請を受け、審査の上助成の可否決定いたします。詳しくは、文化会事務局にお問い合わせください。

## 会務報告

# 令和2年度 函館文化会 事業報告及び収支決算

## 令和2年度 函館文化会事業報告

### 1 郷土史研究者奨励事業を通じ郷土の文化を掲揚し、その振興を図るため、次の事業を実施した

#### (1) 「神山茂賞」の贈呈（定款第4条第1号に掲げる事業）

- ・日 時 11月7日(土) 午前10時30分
- ・会 場 五島軒本店
- ・受賞者 神山茂賞 館 和夫 氏  
贈呈式後、受賞記念講演及び受賞者を囲み祝賀会を開催

#### ・受賞記念講演

演題：川田男爵の進取の気性と江差追分の癒し力

#### (2) 函館文化会講演会の開催（定款第4条第2号に掲げる事業）

- ・日 時 10月17日(土) 午後1時30分
- ・会 場 函館市中央図書館 視聴覚ホール
- ・演 題 函館・空の事件簿  
～全日空ハイジャック事件から見えたもの～
- ・講 師 相原 秀起 氏  
(北海道新聞社小樽支社長)

#### (3) 会報の発行（定款第4条第3号に掲げる事業）

「会報82号」を10月1日発行

### 2 郷土文化振興のため、文化団体が実施する事業を後援し、或いは助成した

#### (1) 後援事業（定款第4条第1号・第2号・第4号に掲げる事業）

- \* 創作紙芝居「初代わたなべ熊四郎物語」  
(資) 水引アート工房清雅舎 7月17日
- \* 函館朗読紀行 Vol.14  
子母澤寛作「花の雨」朗読会  
函館朗読奉仕会 8月27日
- \* 紫式部作「源氏物語」朗読会・講演  
函館朗読奉仕会 11月2日
- \* 第18回青春海峡文学賞  
北海道高等学校文化連盟道南支部文芸専門部  
11月3日
- \* 「小さな親切」作文コンクール  
「小さな親切」運動函館支部 12月15日  
以 上 5 事業

#### (2) 協賛・助成事業（定款第4条第1号・第2号・第4号に掲げる事業）

- \* 函館朗読紀行 Vol.14  
子母澤寛作「花の雨」朗読会
  - \* 紫式部作「源氏物語」朗読会・講演
  - \* 第18回青春海峡文学賞
  - \* 「小さな親切」作文コンクール
- 以 上 4 事業

### 3 会 議

#### (1) 総 会

ア 定時総会 5月25日(月)

於：五島軒本店

(議 題)

(ア) 議 案

- \* 令和元年度事業報告について 承 認
- \* 令和元年度収支決算及び監査報告について 承 認
- \* 役員（理事・監事）の選任について 選 任

(イ) 報 告

- \* 令和元年度収支補正予算について 了 承
- \* 令和2年度事業計画について 了 承
- \* 令和2年度収支予算について 了 承
- \* 「講演会」の開催について 了 承

#### (2) 理事会

ア 第1回理事会 5月14日(木)

於：五島軒本店

(議 題)

(ア) 協議事項

- \* 令和2年度定期総会提出議案について 承 認
  - \* 任期満了に伴う役員（理事・監事）の選任について 承 認
  - \* 神山茂賞選考委員会委員の選任について 承 認
  - \* 企画委員会の体制について 承 認
  - \* 会員の異動（入会・退会）について 承 認
- (イ) 報 告
- \* 今後の日程について 了 承

## イ 第2回理事会 5月25日(月)

於：五島軒本店

(議 題)

## (ア) 協議事項

\* 会長、副会長、常務理事の互選について

承認

\* 顧問の選任について

承認

\* 企画委員会の選任について

承認

\* 神山茂賞選考委員会委員の函館文化会推薦委員の選任について

承認

\* 函館市文化団体協議会理事の推薦について

承認

## (イ) 報 告

\* 今後の日程について

了承

## ウ 第3回理事会 9月30日(水)

於：函館大学・会議室

(議 題)

## (ア) 協議事項

\* 令和2年「神山茂賞」について

承認

\* 会員の異動(入会・退会)について

承認

## (イ) 報 告

\* 企画委員会の選任について

了承

\* 講演会の開催について

了承

\* 定款第23条第5項の規定に基づく報告について  
(会長、副会長、常務理事の職務執行状況の報告)

了承

\* 今後の日程について

了承

## エ 第4回理事会 3月25日(木)

於：フォーポイントバイシェラトン函館

(議 題)

## (ア) 協議事項

\* 令和2年度収支補正予算(案)について

\* 令和3年度事業計画(案)について

\* 令和3年度収支予算(案)について

\* 会議等出席の費用弁償の支給について

\* 会員の異動(入会)について

\* 「講演会」及び「卓話」について

## (イ) 報告事項

\* 令和2年度事業実施状況報告及び収支予算執行状況(令和3年1月末現在)

\* 定款第23条第5項の規定に基づく報告について  
(会長、副会長、常務理事の職務執行状況の報告)

\* 今後の日程について

## (3) 諸会議

## ア 神山茂賞選考委員会

令和2年神山茂賞受賞候補者として複数件の推薦があり、7月2日(木)及び9月2日(水)に選考委員会を開催、慎重な審議の結果、館和夫氏を今年度の神山茂賞受賞候補者として答申した。

## イ 企画委員会

函館文化会が実施する事業の企画・立案に携わるとともに、その開催・運営にあたっている。本年度の委員会の開催日数はこれまで6回(持ち回り委員会を含む)で、主なる実施・担当した事業は次のとおりである。

- ・函館文化会の実施する事業の企画・立案・策定
- ・講演会、市民公開講座、卓話の講師・演題等の協議及び運営
- ・「後援名義使用申請」及び「助成金交付申請」の審査

## 4 その他

## (1) 函館文化会ホームページの運営

函館文化会の知名度の向上と事業活動推進のため、函館文化会の歴史や概要、事業の内容及び開催、報告などの情報をインターネットを通じて会員はもとより全国・世界に発信することを目的に平成29年4月1日に函館文化会ホームページを開設し、運営を行っている。(アドレスは、<http://hakodate-bunkakai.com/>)

## 函館文化会事務局からお知らせとお願い

## ※ 事務局長が交代しました

6月1日付けで事務局長が、「上田昌昭」から「梅田誠治」に交代しましたので、お知らせします。これまで同様よろしくお願いいたします。

※ 会員皆様で「住所」や「連絡先電話番号」等に変更が生じましたら、事務局に連絡をお願いします。

## 令和２年度 函館文化会 収支計算書

(単位：円)

科 目	予算現額	決算額	対予算比	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
基本財産運用収入	5,125,000	5,263,500	△ 138,500	
会費収入	302,000	304,000	△ 2,000	
事業収入	16,000	16,800	△ 800	
寄付金収入	1,000	0	1,000	
雑収入	12,000	12,415	△ 415	
事業活動収入計	5,456,000	5,596,715	△ 140,715	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出	3,492,000	3,422,073	69,927	
①文化振興事業	2,798,000	2,750,426	47,574	
事務手当	1,374,000	1,374,000	0	
顕彰費	100,000	100,000	0	
会議費	331,000	331,043	△ 43	
旅費交通費	196,000	186,100	9,900	
通信運搬費	156,000	156,601	△ 601	
什器備品費	10,000	0	10,000	
消耗品費	48,000	47,687	313	
修理修繕費	10,000	0	10,000	
印刷製本費	230,000	220,520	9,480	
委託料	10,000	10,000	0	
賃借料	52,000	51,840	160	
諸謝金	140,000	136,233	3,767	
助成金	40,000	40,000	0	
負担金	91,000	91,000	0	
雑費	10,000	5,402	4,598	
②土地賃貸事業	694,000	671,647	22,353	
事務手当	225,000	225,000	0	
通信運搬費	10,000	4,128	5,872	
租税公課	400,000	391,800	8,200	
委託料	49,000	48,720	280	
雑費	10,000	1,999	8,001	
(2) 管理費支出	1,555,000	1,520,332	34,668	
事務手当	704,000	703,500	500	
会議費	48,000	44,276	3,724	
旅費交通費	47,000	42,240	4,760	
通信運搬費	75,000	74,876	124	
什器備品費	56,000	42,391	13,609	
消耗品費	56,000	59,933	△ 3,933	
修理修繕費	17,000	16,390	610	
印刷製本費	52,000	51,980	20	
委託料	170,000	170,588	△ 588	
賃借料	260,000	250,336	9,664	
負担金	10,000	5,000	5,000	
雑費	60,000	58,822	1,178	

科 目	予算現額	決算額	対予算比	備 考
3 法人税、住民税及び事業税	430,000	427,000	3,000	
法人税、住民税及び事業税	430,000	427,000	3,000	
事業活動支出計	5,477,000	5,369,405	107,595	
事業活動収支差額	△ 21,000	227,310	△ 248,310	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
特定預金取崩収入	200,000	200,000	0	
神山茂顕彰積立金取崩収入	200,000	200,000	0	
特定預金借受収入	200,000	200,000	0	
郷土資料等整備積立金借受収入	200,000	200,000	0	
投資活動収入計	400,000	400,000	0	
2 投資活動支出				
特定預金繰入支出	300,000	300,000	0	
郷土資料等整備積立金繰入支出	300,000	300,000	0	
特定預金返済支出	200,000	200,000	0	
郷土資料等整備積立金返済支出	200,000	200,000	0	
投資活動支出計	500,000	500,000	0	
投資活動収支差額	△ 100,000	△ 100,000	0	
III 予備費支出	50,000	0	50,000	
当期収支差額	△ 71,000	127,310	△ 198,310	
前期繰越収支差額	431,377	431,377	0	
次期繰越収支差額	360,377	558,687	△ 198,310	

### 〈注記事項〉

- ・投資活動収支の部 特定預金取崩収入は、次のとおりである。  
「神山茂顕彰積立金取崩収入」は、「同積立金のうち 200,000円」を取崩し、神山茂賞贈呈式経費に充てたものである。
- ・投資活動収支の部 特定預金繰入支出は、次のとおりである。  
「郷土資料等整備積立金繰入支出」は、事業運営調整資金として300,000円を、積み立てたものである。



